

# 水産施策の進捗及び実施状況

(令和7年度第2回静岡県水産振興審議会資料)

## 【水産物の販路拡大（やさかな企画）】



やさかなメニュー選定会



産業フェアしずおかへの出展



やさかなメニュー



## 【ノコギリガザミの養殖研究の推進】



抱卵親ガニ



種苗生産風景



ゾエア幼生



メガロパ幼生



稚ガニ

令和8年1月29日（木）

静岡県経済産業部水産・海洋局

# ～ 目 次 ～

◆ 本県水産業の動向	4
◆ 主要施策の実施状況	
【基本方向1】水産業・海洋産業の高収益化・成長産業化	
方向1-(1) 水産業の魅力の増大	13
方向1-(2) 新たな海洋産業の創造・育成	27
【基本方向2】静岡の海の資源の維持・増大	
方向2-(1) 海・川の恵みの持続的な利用の確保	31
方向2-(2) 資源の維持・増大に向けた調査・研究の推進	42
◆ 参考データ	48

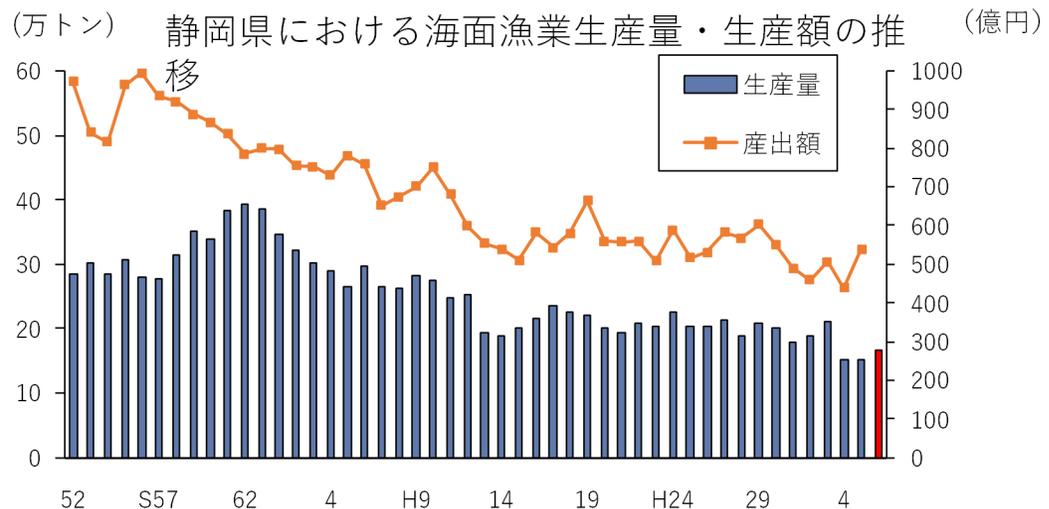
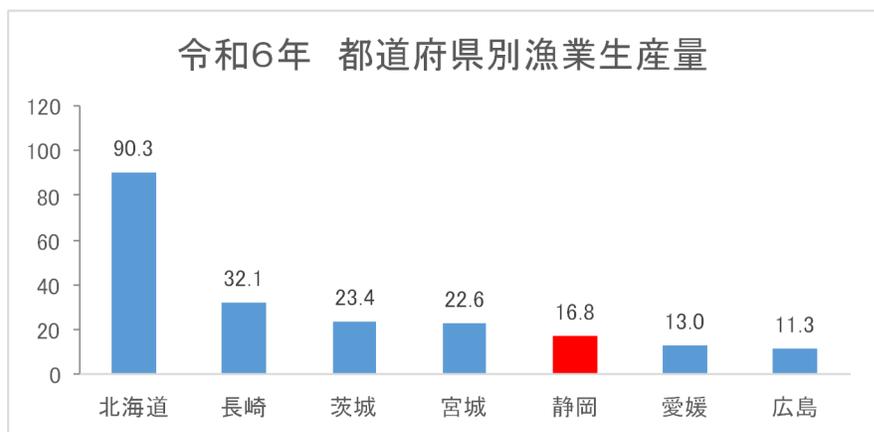
# 本県水産業の動向

# 漁業生産

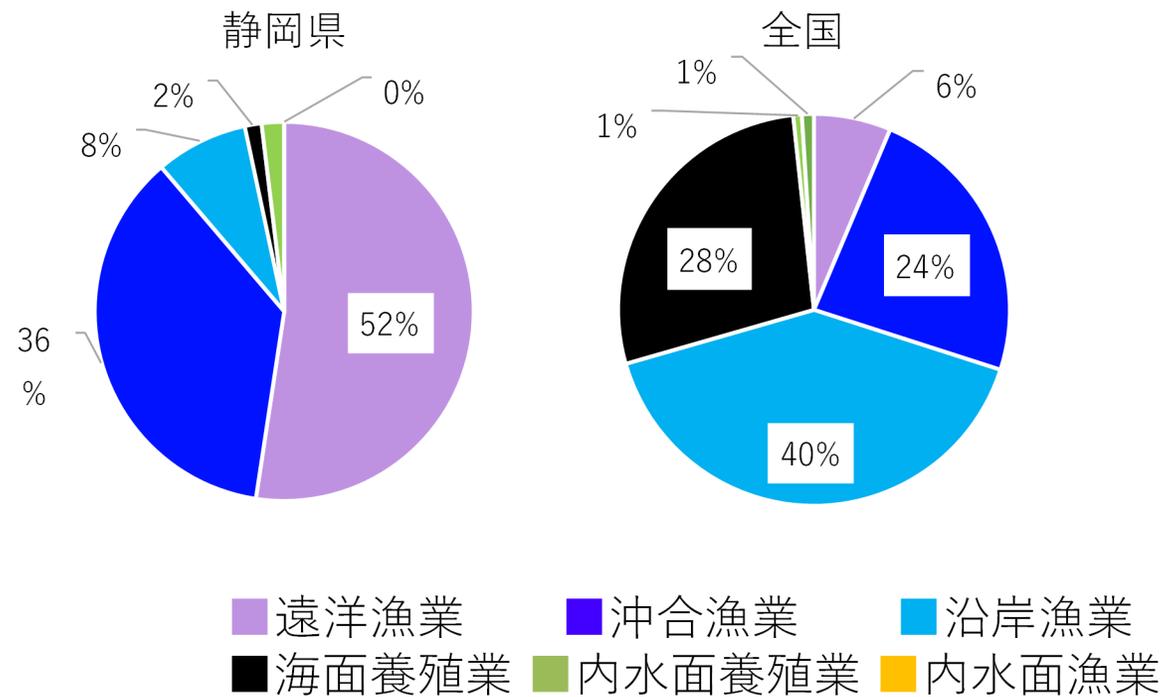
## 要点

- 本県の漁業生産は量・金額ともに、近年は横ばいから下降傾向
- R6海面漁業生産量（速報値）の**全国順位は5位（前年6位）**
- 業種別では遠洋・沖合漁業の生産量が占める割合が高い

### 1 漁業生産量（海面漁業）



### 2 業種別生産量



出典：農林水産省「令和6年漁業・養殖業生産統計」（速報）

# 本県の主要魚種の生産量

## 要点

- 遠洋・沖合漁業の**カツオ生産量は全国 1 位**
- 沿岸漁業、養殖業でも**多くの魚種で全国有数の生産量**を誇っている

		静岡県 (トン)	全国 (トン)	順位	シェア
遠洋・ 沖合	カツオ	81,900	258,000	1位	31.7%
	マグロ類	16,900	123,100	2位	13.7%
	サバ類	11,100	261,100	9位	3.4%
	キンメダイ	2,900	未公表	—	—
沿岸	シラス	2,300	36,900	7位	6.2%
	サクラエビ	501	501	1位	100.0%
	アサリ類	0	4,400	—	0%
	シラスウナギ	0.98	4.73	1位	20.8%
養殖	マアジ	200	500	1位	40.0%
	ニジマス	1,253	5,180	1位	24.2%
	ウナギ	1,791	16,159	4位	11.0%

出典：農林水産省「令和6年漁業・養殖業生産統計」

キンメダイ・サクラエビは静岡県水産・海洋技術研究所調べ、シラスウナギは日本養殖新聞調べ

# 単価・仕向先

## 要点

- 県内向けの単価は県外向けの約2.1倍 (R5 : 1.9倍)
- 仕向け先は、県内55%、県外45%

## 1 生鮮魚介類の仕向け先別の単価 (R6)

	県内向け			県外向け				県内合計	県外合計	総合計
	地元小売店	県内魚市場	その他	東京・横浜	名古屋	京阪神	その他			
R6	1,324	884	743	626	428	355	429	1,115	527	850
R5	1,244	785	851	641	577	366	464	1,064	557	853
R4	1,212	739	890	643	368	291	398	1,062	506	805
平均	1,260	803	828	637	458	337	430	1,080	530	836

## 2 生鮮魚介類の仕向け先別の数量割合 (R6)

	県内向け			県外向け				県内合計	県外合計	総合計
	地元小売店	県内魚市場	その他	東京・横浜	名古屋	京阪神	その他			
R6	32.6	10.8	11.6	24.5	2.8	5.4	12.3	55	45	100.0
R5	33.7	13	11.6	23.1	2.7	5.2	10.7	58.3	41.7	100.0
R4	33.6	10.5	9.5	23.7	3.9	6.3	12.3	53.7	46.3	100.0
平均	33.3	11.4	10.9	23.8	3.1	5.6	11.8	55.7	44.3	100.0

出典：静岡県卸売市場関係資料（県内合計から焼津市場を除いた数値で算出）

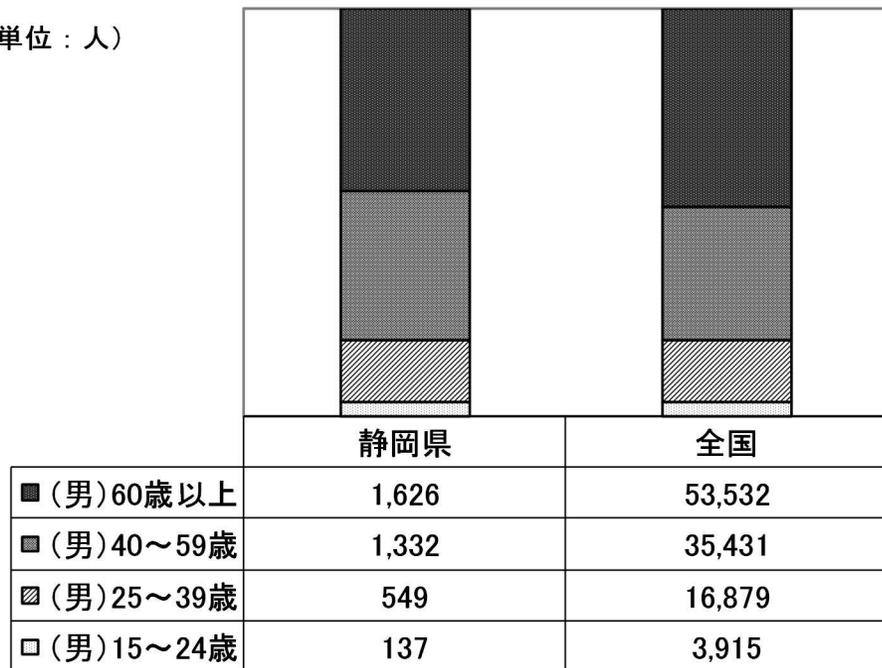
# 漁業就業者数

## 要点

- 漁業就業者数は**減少傾向**（10年間で33%減少）
- 60歳以上の高齢者の占める割合は45%で全国と同程度（全国49%）

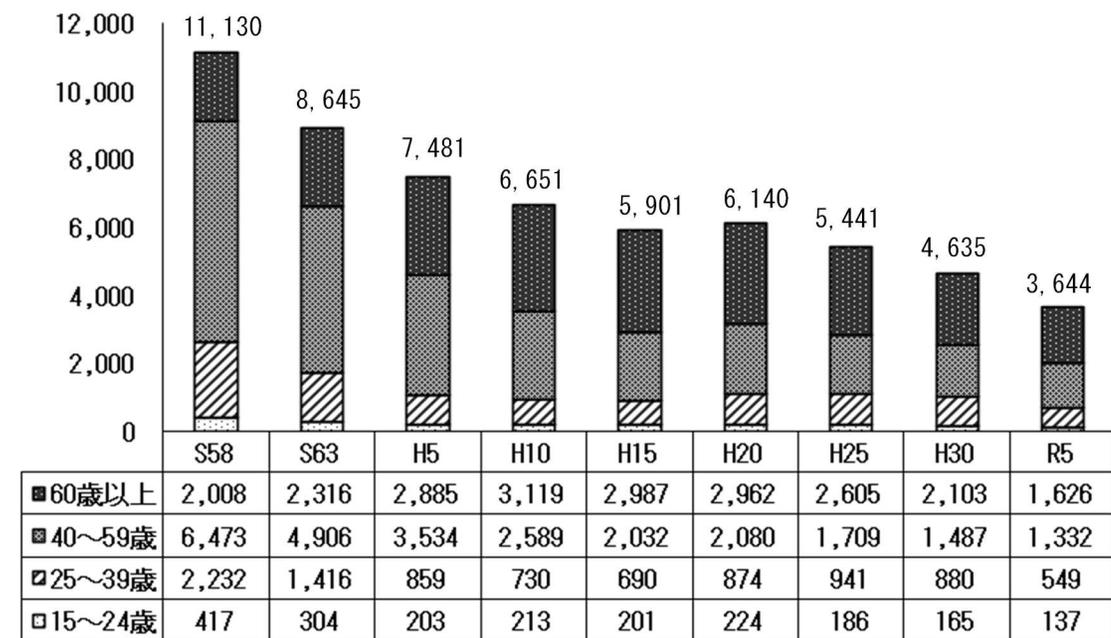
## 1 静岡県と全国の漁業就業者数の比較 (R5)

(単位：人)



## 2 静岡県の漁業就業者数の推移

(単位：人)



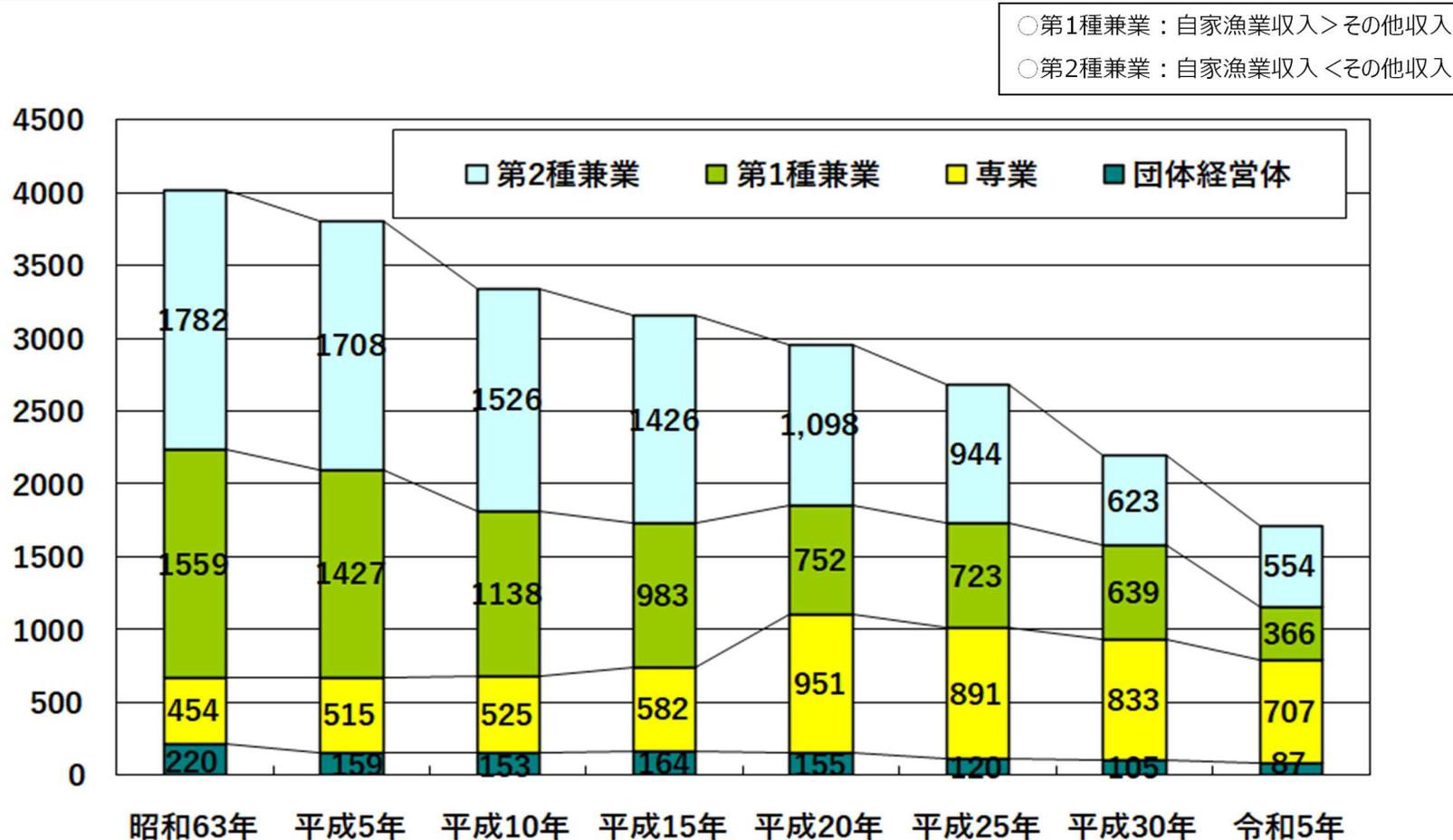
出典：農林水産省「2023年漁業センサス」

# 漁業経営体数

## 要点

- 漁業経営体数は減少、特に第1種兼業の減少が大きい
- 長引く不漁等により、第1種兼業が第2種兼業に移行したことによるものと推測

## 静岡県の 漁業経営体数



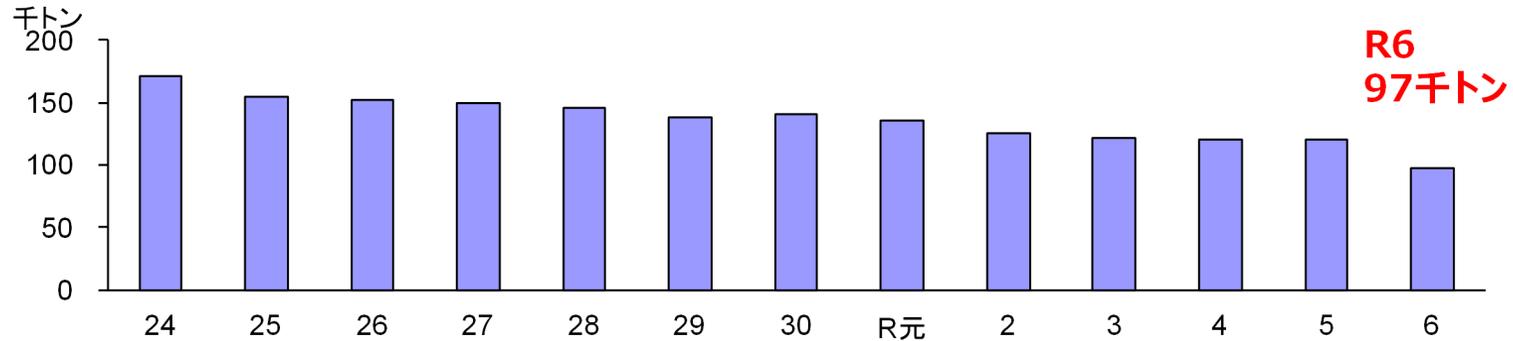
出典：農林水産省「2023年漁業センサス」

# 水産加工業

## 要点

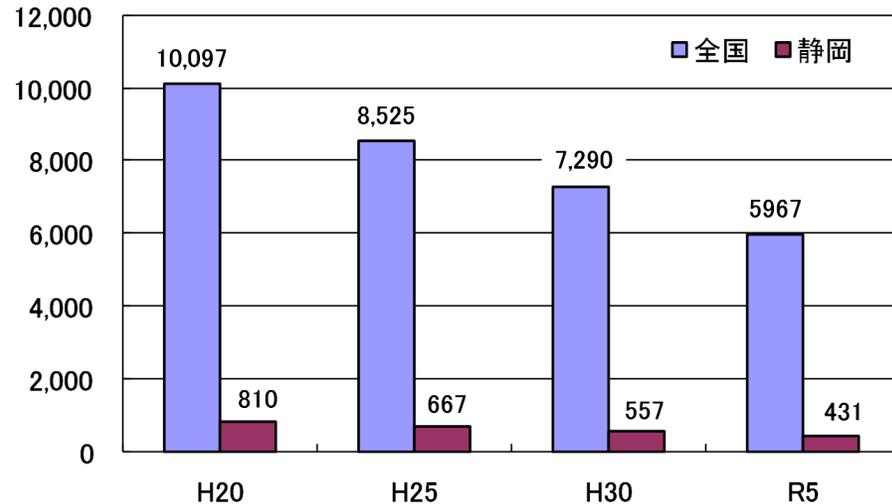
- 水産加工品の生産量は**減少傾向**
- **小規模経営体が大半**を占め、経営体数は**減少傾向**

### 1 静岡県の 水産加工品生産量



出典：農林水産省「水産加工品統計」、(公社)日本缶詰びん詰レトルト食品協会「缶詰時報」  
※平成20年から母集団の取り方に変更があったため、それ以前と不連続になっている。

### 2 水産加工 経営体数の推移



出典：農林水産省「2023年漁業センサス」

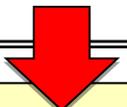
# 主要施策の実施状況

## 水産振興条例【H31.3】

### 4つの基本理念

- 資源の適切な管理・持続的利用の確保
- 水産関連産業がともに発展

- 全漁業種類の共存共栄
- 漁村地域の多様な価値の発揮



## 水産振興基本計画【R4.3】

## 水産施策の重点事項

水産振興基本計画【R4.3】		水産施策の重点事項
(方向1) 水産業・海洋産業の高収益化・成長産業化	(1)水産業の魅力の増大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来志向の対応を幅広く検討するため、<u>海に関わる多様な関係者によるプラットフォームを立ち上げて検討。</u></li> <li>・水産業者等の所得向上の実現に向けて、<u>海業やイノベーション創出事業をより一層推進（一部メニュー拡充）。</u></li> <li>・県産水産物の需要喚起に向けて、<u>展示会や商談会等の宣伝活動の取組を推進。</u></li> <li>・次世代を担う漁業就業者の確保に向けて、<u>漁業高等学園を核とした人材育成を実施。</u></li> </ul>
	(2)新たな海洋産業の創造・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種苗生産能力の増強に向けて、<u>温水利用研究センター沼津分場（生産棟）の再整備（R7新築工事等）。</u></li> <li>・マリンバイオ産業の創出に向けて、<u>駿河丸を活用した調査や検体採集を実施。</u></li> </ul>
(方向2) 静岡の海の資源の維持・増大	(1)海・川の恵みの持続的な利用の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサリ資源の回復に向けて、<u>幼生の着底促進、食害防除、人工稚貝の活用など、総合的な対策を実施。</u></li> <li>・伊豆や榛南の磯焼け回復に向けて、<u>海藻種苗の移植を実施、漁業者による保全活動を支援。</u></li> </ul>
	(2)資源の維持・増大に向けた調査・研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノギリガザミやキンメダイ等の重要水産資源の回復に向けて、<u>大学等の外部機関と連携して種苗生産技術を開発。</u></li> <li>・資源評価や漁場予測の高精度化に向けて、<u>駿河丸を活用した調査や蓄積したビッグデータの分析を実施。</u></li> </ul>

# 方向1- (1) 水産業の魅力の増大

## < 現 状 >

- ・ 複数魚種で不漁が継続、漁業生産量は長期横ばいから減少へ
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化、水産業を取り巻く経営環境は厳しい状況
- ・ 漁業就業者の減少、水産関連産業の人手不足が深刻化

## < 課 題 >

- ・ 水産業者の所得・利益の向上につながる魚価向上対策が必要
- ・ 首都圏に依存した流通体制から、地場や近県への需要拡大が急務
- ・ 就業者確保に向け継続的な取組が必要

対応方向

- ① 県産水産物の高付加価値化やブランド化の推進
- ② 新たな流通体制の構築、首都圏以外への需要拡大
- ③ 長期にわたって水産現場で活躍できる就業者の確保・育成、漁業経営体や漁協の経営力強化



成果指標／活動指標	(基準値) 2020年度	(参考値) 2021年度	2022年度	2023年度	(現状値) 2024年度	2025年度	(目標値) 2025年度
1 経営体当たり漁業産出額	923万円	907万円	808万円	732万円	1,176万円	*	1,000万円(毎年度)
新規漁業就業者数	57人	62人	61人	65人	65人	*	80人 (毎年度)
県産水産物の新たな県外需要開拓件数	0件	累計3件	累計5件	累計7件	累計10件	累計10件	累計10件
漁協漁港食堂集客者数	49万人	53万人	60万人	75万人	76万人	*	80万人 (毎年度)
漁業施設整備数	8施設	4施設	7施設	7施設	9施設	8施設見込	8施設 (毎年度)
漁業高等学園卒業後の漁業就業者数	16人	22人	21人	13人	5人	12人見込	15人 (毎年度)
新規漁業士の認定者数	4人	0人	11人	7人	7人	7人	4人 (毎年度)

\* 2026年6-8月公表予定

# (1) 水産業の生産性向上を目指した水産物の高付加価値化

## 【水産業の未来づくりの推進】

### 要点

- 海洋環境の変化が進み、従来の支援では対応できない事態が生じている
  - ➔ 「水産業の未来づくりプラットフォーム」において、課題抽出や経営分析をもとに海洋環境の変化等に対応した新たな漁業経営や漁協経営の在り方を検討し、これらの結果や改善策を今後の施策に反映

### ○ プラットフォームによる検討

構成員	所属（地域、分野等）	人数
学識者	東京海洋大学教授（海洋政策・協業化等の業績）	1名
	（一財）マリンオープンイノベーション機構	1名
業界代表	静岡県漁業協同組合連合会	2名
漁業者代表	しらす船曳網（中・西部）、沿岸一本釣（東・中部）	4名
加工・流通業	しらす加工（中部）、鮮魚流通・加工（東部）	2名



2そう船曳網漁船（南駿河湾）



日戻りキンメ漁船（伊豆）

### ○ 経営分析の実施

区分	漁業	漁協
対象	しらす船曳網、沿岸一本釣	伊豆、いとう、田子の浦、清水、南駿河湾、浜名
材料視点	財務状況（青色申告等） 操業形態、使用漁船、雇用	財務状況（業務報告書）、その他関連情報 組織体制、事業概要、6次産業化等



第1回検討会での議論

# (1) 水産業の生産性向上を目指した水産物の高付加価値化

## 【水産業の未来づくりの推進】

### 要点

- しらす船曳網、沿岸一本釣漁業や伊豆、いとう、田子の浦、清水、南駿河湾、浜名漁協を中心に経営状態の把握や課題を抽出

内容	時期	概要
事前調査	R7.2～3月	課題抽出アンケート（漁業士、加工・出荷連等）
業者選定 座長依頼	5/19審査会 5/21web会談	プロポーザル方式、応募6社から選定 水産経済や海洋政策の専門家、李先生の推薦
検討会 （作業部会）	第1回7/22 （第2回8/8） （第3回9/16） 第4回1/27	キックオフ、漁業の現状や課題の整理 漁協経営の現状や課題を整理 課題の体系的整理、改善の方向性の検討 具体施策、ビジネスモデル・事業プラン協議
経営分析 財務データ収集	漁協経営	業務報告書（6漁協）
	漁業経営	しらす船曳（14経営体）、一本釣り（9隻）
漁協・漁業者 ヒアリング	8/6～7	南駿河湾、浜名、清水、田子の浦（5漁業者）
	8/25～26	伊豆、いとう（6漁業者）
県産水産物利用者アンケート	8～9月	対象：首都圏の飲食店、水産物取扱業者等 Googleフォームで県産水産物の評価を集約

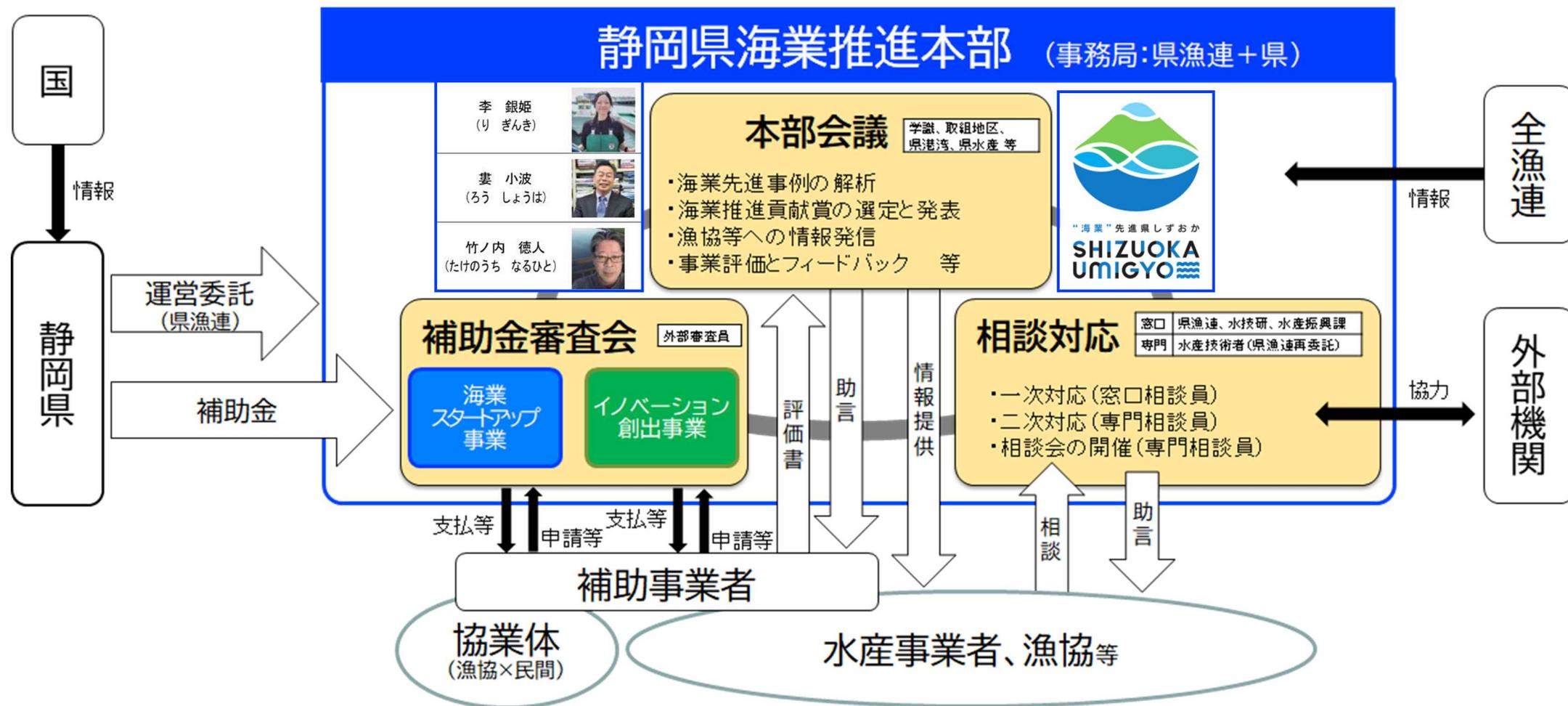
# (1) 水産業の生産性向上を目指した水産物の高付加価値化 【海業を通じた所得向上の取組の推進】

## 要点

- 専門家等で組織した本県海業の全面バックアップ
- 漁協の経営改善に資する海業の取組に向けた支援
- 水産業者等の意識醸成と経営改善に資するチャレンジ支援

(静岡県海業推進本部の設置運営)  
(海業スタートアップ事業を通じた支援)  
(イノベーション創出事業を通じた支援)

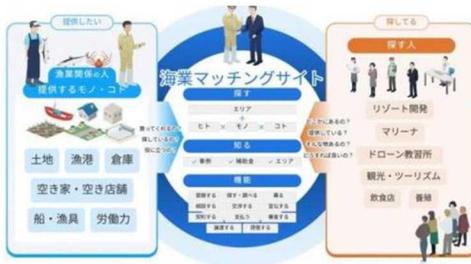
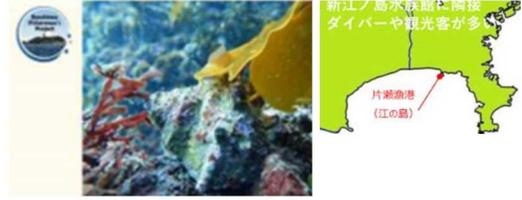
【目標】  
関連所得  
10%向上



# (1) 水産業の生産性向上を目指した水産物の高付加価値化 【海業を通じた所得向上の取組の推進 海業推進本部】

## 要点

- 海業の専門家3名を委員とした本部会議、先進事例解析や情報発信、専門家等と協力した相談対応等の実施

回次	日時 場所 参加者	議事	その他	
第1回	6月19日 @静岡中央ビル 30名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海業マッチングサービス報告</li> <li>・海業ロゴマーク発表</li> <li>・取り組み状況報告</li> <li>・方針協議 → 管理者の意識醸成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産庁「海業に取り組む地区」 県内から全国2番目の10地区が選出</li> <li>・水産庁「海業取組促進事業」 県内でも6箇所事業展開←伴走支援</li> </ul>
第2回	9月12日 @熱海聚楽ホテル 61名 漁協+管理者(県土木、市町)	<p><b>(海業推進セミナー)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度説明、補助事業紹介</li> <li>・事例紹介</li> <li>・ワークショップ</li> </ul>		<p>神奈川県との交流スタート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かながわ海業スタートアップセミナー (9/17)</li> <li>・かながわ海業シンポジウム(11/26) などに担当者が参加</li> </ul>
第3回	3月11-12日予定 @神奈川県海業視察 江ノ島、小田原	<p><b>(先進地視察)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組視察</li> <li>・意見交換</li> </ul>	<p>ブルーカーボン江の島共同体</p>  <p>TOTOCO小田原</p> 	

# (1) 水産業の生産性向上を目指した水産物の高付加価値化 【海業を通じた所得向上の取組の推進 海業推進セミナー】

## 要点

- 目的：海業を具体的に推進するために必要な知識の習得により、各地域における海業を積極的に展開する
- プレイヤーとなる漁協職員、管理者である県土木や市町職員、伴走者としての専門家等 → 61名が参加
- 取組の具体化に向けて、現状の把握→課題・問題点→解決方法、について活発な議論がなされた

項目	内容
開会	○ロゴマークをリリース 
海業制度	○法制度の説明 港で取組を行う際の関係法令を紹介
事例紹介	①網代港 ②西伊豆町 ③神奈川県 取組を実施している各地区での事例を紹介
情報発信	①補助事業紹介 ②海業マッチング 取組を実施するための支援制度やサービスを紹介
ワークショップ	全員参加型のグループワーク

## ○ワークショップ

- ・ 地区別6グループでディスカッション
- ・ とりまとめ結果をグループ代表が発表

## 検討結果（例：由比地区）

### 【取組の内容】

遊漁船体験

### 【制度上の制限・問題】

港の目的外使用、観光船業の届出

### 【将来対応・解決の方向性】

協議会による地域調整、安全性確保

既存の食堂・直売所の集客増につなげる



- ◆ 関係者が制度を理解
- ◆ 何をすればよいか、を確認

取組を具体化

→ 補助金申請にもつなげる

# (1) 水産業の生産性向上を目指した水産物の高付加価値化 【海業を通じた所得向上の取組の推進 海業スタートアップ事業】

## 要点

- 1件採択 由比港漁協×海結研究所(静岡新聞社) 漁業×観光×デジタルで創る新しい海の体験

## 早朝～昼の半日コース「定置網漁水揚げ見学＋超海鮮丼」

水揚げ体験から調理・実食までを一気通貫させた「一次産業まるごと観光」  
海の恵みと漁業者の想いを五感で感じて共感を育みます

### 1. アプリ「漁業体験GO」で体験予約

### 2. 定置網漁水揚げ見学

定置網のさかなの水揚げを見学し、漁業のリアルを体感します。

### 3. 選んだ魚たちで捌き体験

地域の奥様方と選んださかな達を捌き方や美味しい食べ方を学びます。

### 4. 実食。「駿河湾超海鮮丼」

獲りたての刺し身の特盛り海鮮丼に。富士山級の満足度で締め。

さらに**プレミアムプラン**として、①定置網漁に同行 ②海上から富士山を拝む企画についても同時に実施予定！

2026年1月運用開始予定



## 海業サービス #1

## 由比漁港 定置網漁体験＋超海鮮丼



続く海業サービスを作成、順次リリース

# (1) 水産業の生産性向上を目指した水産物の高付加価値化 【海業を通じた所得向上の取組の推進 イノベーション創出事業】

## 要点

- R6年度から、**所得向上10%を目標**とした新たな事業として開始（前事業はR1-R5）
- R7年度の実施件数は、全体で「**148件**」を達成（参考：R6 170件）

## <実施状況>

(単位：件)

取組分野別			地域別			業種別		
水産振興	資源管理	人材確保	東部	中部	西部	漁業	水産加工業	漁協等
145 ・新たな漁業の開始 ・販路開拓 など	1 ・食害対策 など	2 ・高齢人材の採用 ・雇用継続	59	64	25	114	20	14
148			148			148		

## <取組事例>

申請者	目的	取組内容	目指す効果 (5年後の所得)
加工業者 (異業種連携)	しらす漁船に乗船&ちよい釣り体験による売上増加	漁業者と連携し、しらす漁船乗船体験を行うことによる集客と自社の直売所を乗船受付所とすることで店舗売上増加を狙う。	200万円 → 365万円
漁業者 (異業種連携)	伊勢海老刺し網漁の魚介類網外しの移動体験及び魚介類販売による収益増加	キャンプ場運営者と連携し、キャンプ場利用客を対象として、伊勢海老刺し網漁の魚介類網外し（漁業体験）と未利用魚を真空パック加工した魚介類の販売をすることによる収益増加を狙う	130万円 → 250万円
漁業者	新魚種の水揚げと経費削減による所得向上	新たにカツオ・マグロ漁を行うにあたり、トローリング機能のついたエンジンの導入と省エネな船外機を導入することで所得向上を狙う	120万円 → 170万円

# (1) 水産業の生産性向上を目指した水産物の高付加価値化 【高度衛生管理体制化及び県産水産物の品質向上支援】

## 要点

- 食品衛生法等の一部を改正する法律により、**営業許可制度の見直し、HACCPに沿った衛生管理**の対応が必要
- 県内中小規模の水産加工業者に対して加工セミナーの開催や研修会を通じて支援を行うとともに、産地市場の衛生調査や研修会開催により、**水揚げから加工まで一貫した衛生管理の向上を図る**ことで、県産水産物の品質・価値向上を目指す

### 水産加工業界支援

- **対象** 県内水産加工業者、水産加工団体
- **内容** 水産加工技術セミナー、水産物の食品表示・衛生管理の研修会の開催



水産加工技術セミナー  
(水技研にて開催)



食品表示・衛生管理の研修会  
(県内4地区で開催)

### 産地市場支援

- **対象** 水産物を扱う卸売市場
- **内容** 市場衛生管理高度化支援  
(現地衛生調査及び研修会等を実施)



現地衛生調査  
内容：菌検査、魚体温度確認等



研修会開催  
内容：座学、手指消毒実演等

## (2) 県産水産物の需要拡大 【県産水産物の認知度の向上】

### 要点

- 県産水産物の認知度向上を通じた消費拡大を図るためのPR活動や、販路拡大を支援
- 関連団体と組織した静岡県産水産物等PR推進部会による統一的なPR事業の実施

### 現状・課題

#### 「静岡＝水産物」のイメージなし

全国上位の漁業生産量を誇り、多くが首都圏等に出荷されているが、本県産水産物の認知度は低い。

#### 地場水産物の提供はわずか

地場流通の仕組みが十分に整っていないため、産地で地場のものが食べられておらず、産地を核にした地場水産物のPRもうまくできていない。

#### PRがバラバラ

各地に漁協直営食堂ができ、水産祭りも開催されるようになったが、PRがバラバラなため、県産水産物全体の需要拡大にうまくつながっていない。

### 「静岡県産水産物等PR推進部会」による統一的なPR事業を実施

- ① 誘客強化のため、最新情報を反映した漁協漁港食堂ポケットマップを作成（R7は中国語版を作成）



- ② 県公式ホームページ「魚ッchingしずおか」による食堂・直売所等のPR

### 県産水産物のPR支援

県産水産物の販路拡大のため、展示会や物産展に出展する際の経費を支援（1/2以内、上限15万円）

R7は延べ15事業者に1,525千円の補助金を交付決定済



## (2) 県産水産物の需要拡大

### 【魚と野菜の消費を促し健康増進を狙う「やさかなプロジェクト」】

#### 要点

- 静岡市や浜松市の生鮮魚介類の購入量は全国平均以下。また野菜の摂取率も全国平均以下
  - ➔ 魚と野菜を食べる習慣を月1回以上増やし、健康的な食生活を送ることを目指す、共同プロジェクトをR6年度より始動！  
静岡県おさかな普及協議会(静岡県漁連) ・ キューピー株式会社 ・ 静岡県（水産振興課、健康増進課）

#### 取組内容

- ・ 簡単で美味しいやさかなメニュー（魚×野菜×キューピー製品）を開発・提案
- ・ キューピー（株）の他、量販店等も、当プロジェクトへ参画
- ・ 「やさかな」の認知を高めるため、メディアを通じて県民への啓発を図る



野菜と魚を食べよう！

やさいをたっぷり、  
さかなといっしょに、  
かんたんでおいしい、  
なによりおいしい 健康ごはん

#### 実施状況

- ・ 季節ごとに推奨するやさかなメニューの開発、選定会を実施。  
冬と春に推奨するやさかなメニュー（主菜2品、副菜6品の計8品）を決定。
- ・ 各種イベントへの参加を通じた、やさかなメニューの情報発信のほか、  
県庁HPにてレシピを公表。
- ・ SNSを活用した情報発信の強化、参画メーカー、量販店と協力した企画により、  
やさかなメニューのPRに取り組む。

#### やさかなメニューPRに向けたイベントの実施



やさかなメニュー選定会



産業フェアしずおかへの出展



しらすおし鍋



決定したやさかなメニュー

トマトつゆで食べる！さっぱりサラダそうめん

# (3) 激甚化する風水害の影響緩和や市場・漁港機能の維持・向上に向けた水産基盤整備

## 【南駿河湾漁協 御前崎漁港製氷施設の整備】

### 要点

- 南駿河湾漁協が行う御前崎港製氷施設の整備に助成
- 漁獲物の鮮度管理に必要な製氷施設の規模適正化により、ランニングコスト削減を図る。船積用の搬出口を新設し、混雑解消と利便性の向上を図る
- 広域浜プランへの位置づけを元に、R6～R8の3カ年で国庫補助金(水産業競争力強化緊急施設整備事業)に申請

### スケジュール及び全体事業費

(単位：千円)

事業内容	R5	R6	R7	R8
製氷施設	基本設計 ※事業主負担	実施設計 17,000	建築工事 926,500	解体工事 46,660

### 事業費

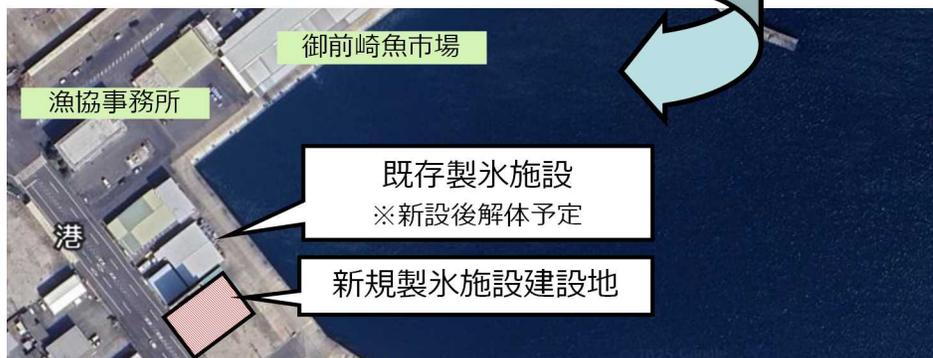
(単位：千円)

事業内容	内訳	R6 (実施設計)	R7 (建築工事)	R8 (解体工事)	合計
製氷施設 990,160	国(1/2)	8,500	463,250	23,330	495,080
	県(1/5×0.85)	2,890	157,505	0	160,395
	地元	5,610	305,745	23,330	334,685
	合計	17,000	926,500	46,660	990,160

### 事業実施場所(御前崎市)



漁協事務所



御前崎魚市場

漁協事務所

既存製氷施設  
※新設後解体予定

新規製氷施設建設地

### 【整備計画】

- ・製氷能力60ト/日⇒20ト/日、貯氷量200ト⇒60トへ
- ・搬出口を3か所にする事で、混雑解消と利便性の向上を図る

現行



整備イメージ



架空エア搬送



船積用の搬出口を新設し、漁船等の製氷待ちが解消

# (3) 激甚化する風水害の影響緩和や市場・漁港機能の維持・向上に向けた水産基盤整備

## 要点

- 大規模自然災害に対する水産業の早期回復体制を構築するため、**堤防等の整備・耐震化**を実施
- 漁港ストックを最大限活用し、持続的な漁港機能を発揮するため、**既存施設の長寿命化対策**を実施

### 【令和7年度主要事業】

事業名	実施主体	事業内容	R7事業費
水産流通基盤整備事業	静岡県	焼津漁港 防波堤の耐震改良等 舞阪漁港 護岸の耐震改良等	4億8,882万円 (補正1億8,000万円を含む)
水産生産基盤整備事業	静岡県	福田漁港 岸壁の耐震改良等	2億1,000万円
漁港施設機能強化事業	静岡県 静岡市、熱海市	妻良漁港 防波堤の耐震改良 初島漁港 防波堤改良等 ほか2漁港	4億5,995万円
水産物供給基盤機能保全事業	静岡県 静岡市、沼津市 吉田町	舞阪漁港 防波堤改修等 福田漁港 航路浚渫等 ほか4漁港 吉田漁港 泊地浚渫 ほか4漁港	10億7,738万円 (補正3億2,000万円を含む)



# (4) 長期にわたって水産現場で活躍できる技術的・職業的スキルを備えた漁業就業者の確保・育成・定着 【県立漁業高等学園における人材育成】

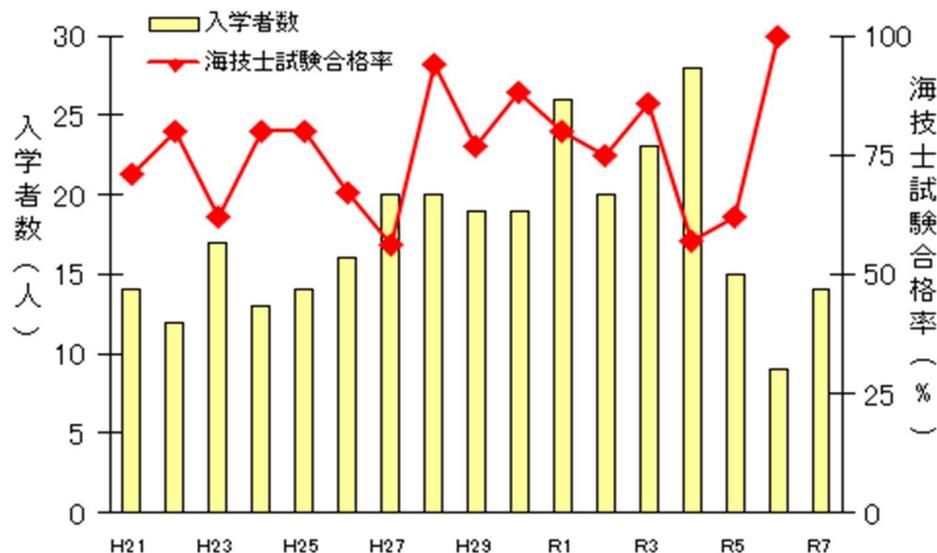
## 要点

- 漁業界への貢献 (1,033名の卒業生を漁業界へ輩出、**県内漁業への就業率100%**、**新規漁業就業者の約3割**)
- 入学生の積極的な確保 (高校訪問、DM発送、漁業就業者フェアへの出展、検索連動型広告などを活用した**情報発信**)
- 現場重視の教育の実践 (**専門職員による実務指導**、航海術等の座学、ロープワークや1か月間にわたる**遠洋航海実習**など)
- 就業定着率の向上 (溶接、海技士等の**必要な技能の取得支援**、**卒業後の生徒面談の継続**、**就業準備金の活用支援**)

## 漁業高等学園の概要

- ・昭和45年設立
- ・1年間の全寮制、定員30名(15~30歳)
- ・次代の幹部漁船員(船長、機関長)の養成

## 入学者数・海技士筆記試験合格率の状況



## R7年度の取組状況



SNSや検索連動型広告を活用した生徒募集(周年)



オープンキャンパスの来場者が大型エンジンの操作を体験(8月)



遠洋航海実習期間中のカツオ一本釣り(11~12月)



アフリカの水産関係者と漁業の未来を考えるセミナーを共催(10月)

# (5) 漁業を営む経営体や漁協の経営力強化 【漁協の枠を超えた広域的な連携の促進】

## 要点

- 水産業の持続的発展及び漁村の活力再生のため「浜の活力再生プラン」「浜の活力再生広域プラン」策定を支援
- 水産庁の補助金の活用等を通じてプランに記載された取組の実現を支援し、様々な連携で経営力の強化を図る

## 【浜の活力再生プラン】

### 地域水産業再生委員会

漁協・漁業者

市町

漁業収入向上・コスト削減  
漁村活性化

漁業者の所得  
10%向上を目標

### 取組例

衛生鮮度管理の徹底によるキンメダイ単価向上（伊豆地域）  
漁業者自身によるシラス加工品の製造販売（由比地区）

**R7年度 更新7プラン+新規1プラン**

更新：伊豆稲取・伊豆西伊豆・静岡・沼津我入道・焼津  
榛南・浜名 / 新規：浜名湖（養鰻）

## 【浜の活力再生広域プラン】

### 広域水産業再生委員会

\*複数の地域水産業再生委員会構成

地域水産業  
再生委員会A

地域水産業  
再生委員会B

地域水産業  
再生委員会C

漁村機能の再編・活性化  
中核的漁業者の育成

魚価向上など  
委員会で定めた目標達成

### 取組例

キンメダイ食害防止対策の地区間情報共有（伊東熱海広域）  
沼津4地区共同での直売所PR（沼津広域）

**R7年度 更新プラン無し**

## (5) 漁業を営む経営体や漁協の経営力強化 【水産業振興制度資金による漁業者等支援】

### 要点

- 漁業者の漁船装備の高度化などを目的とした水産業振興制度資金の運用

### ○ 水産業振興制度資金の目的

漁業経営の特徴として、収入が水揚高に左右されること、漁船装備に高額の資金が必要なことがあげられる。県は制度資金を設け、利子補給や直接融資を実施することで漁業経営を支援している。

### ○ 水産業振興制度資金の融資承認額

制度資金の融資にあたっては、目的に沿った融資であるか県が確認し、承認を行っている。主な資金である漁業近代化資金について、令和6年度において漁業者等に対し89件、25億9千7百万円の融資を承認した。

主な県制度資金	概要	利用例	R6融資承認額 (件数、金額)
漁業近代化資金 (利子補給)	漁業者装備の高度化等に対する低利融資	・漁船建造、加工用施設設置、養殖用種苗・餌購入等	89件 2,597百万円

※漁業近代化資金の貸付利率は2.2%（令和7年12月31日時点）

### ○ 水産業振興制度資金の需要把握と周知活動

- ・資金需要について、融資機関や漁協を通じて確認のうえ、適切な資金を準備している。
- ・制度資金の周知について、県ホームページや毎年度作成するパンフレットにより実施している。  
また、県内各地区の漁業士会の開催時など漁業者と直接会う機会をとらえてPRを行っている。

# 【方向1- (2)】 新たな海洋産業の創造・育成

## < 現 状 >

- ・駿河湾などの特徴ある海洋環境と多様な海洋資源の存在
- ・栽培漁業の要となる温水利用研究センター沼津分場の老朽化
- ・沿岸漁業資源の減少
- ・半世紀以上にわたる海洋観測データの蓄積

## < 課 題 >

- ・マリンバイオテクノロジーを核とした新たな海洋産業の創造や育成が必要
- ・量産実証施設も含めた種苗生産施設の再整備が必要
- ・データ活用による研究推進と産業育成が必要

対応方向

- ①技術開発拠点としての「量産実証施設」の整備
- ②オープンイノベーションに基づく外部研究者との連携による調査研究の実施
- ③海洋由来微生物など低・未利用資源の活用による産業創造
- ④研究の社会実装（企業の商品づくりや漁業者活動の支援）



新たな海洋資源の探索

活動指標	(基準値) 2020年度	(参考値) 2021年度	2022年度	2023年度	(現状値) 2024年度	2025年度	(目標値) 2025年度
オープンイノベーション等を活用した研究開発件数	5件	6件	5件	5件	6件	6件	6件/年
研究成果の実現化件数	累計4件	累計4件	累計5件	累計6件	累計9件	累計11件	累計8件
オープンイノベーションに向けた海洋観測データの提供回数	0回	10回	12回	12回	12回	12回見込	12回/年

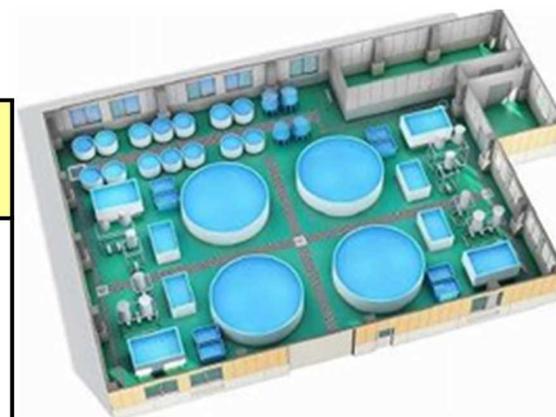
# (1) 水産資源の持続的利用に資する種苗生産技術の確立に向けた温水利用研究センター 沼津分場の機能強化

## 要点

- 新魚種の種苗生産技術を確立し、栽培漁業のさらなる推進を図る
- マリンバイオ研究の開発拠点として、外部機関との共同研究等を推進

## ○量産実証施設の概要

区分	内容
設備等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20トン試験水槽×4台</li> <li>・閉鎖循環システム×4組</li> <li>・電解殺菌装置×1台</li> <li>・餌料培養水槽×14台 等</li> </ul>
機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉鎖循環式の飼育設備を導入したことにより、疾病防除や飼育環境（水温、塩分等）のコントロールが可能</li> </ul>
想定試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉鎖循環飼育によるノギリガザミの種苗生産技術確立（R5から実施中）</li> <li>・閉鎖循環飼育によるクエの種苗生産技術確立</li> <li>・漁業現場のニーズに応じた種苗生産技術の開発</li> <li>・民間企業が『夢あじ(カイワリとマアジのハイブリッド)』の種苗量産化試験実施（R6.3から） ⇒種苗はその後、沼津地区の海面養殖生簀へ移され、養殖業者が飼育・試験出荷を実施</li> </ul>



量産実証施設の透視図

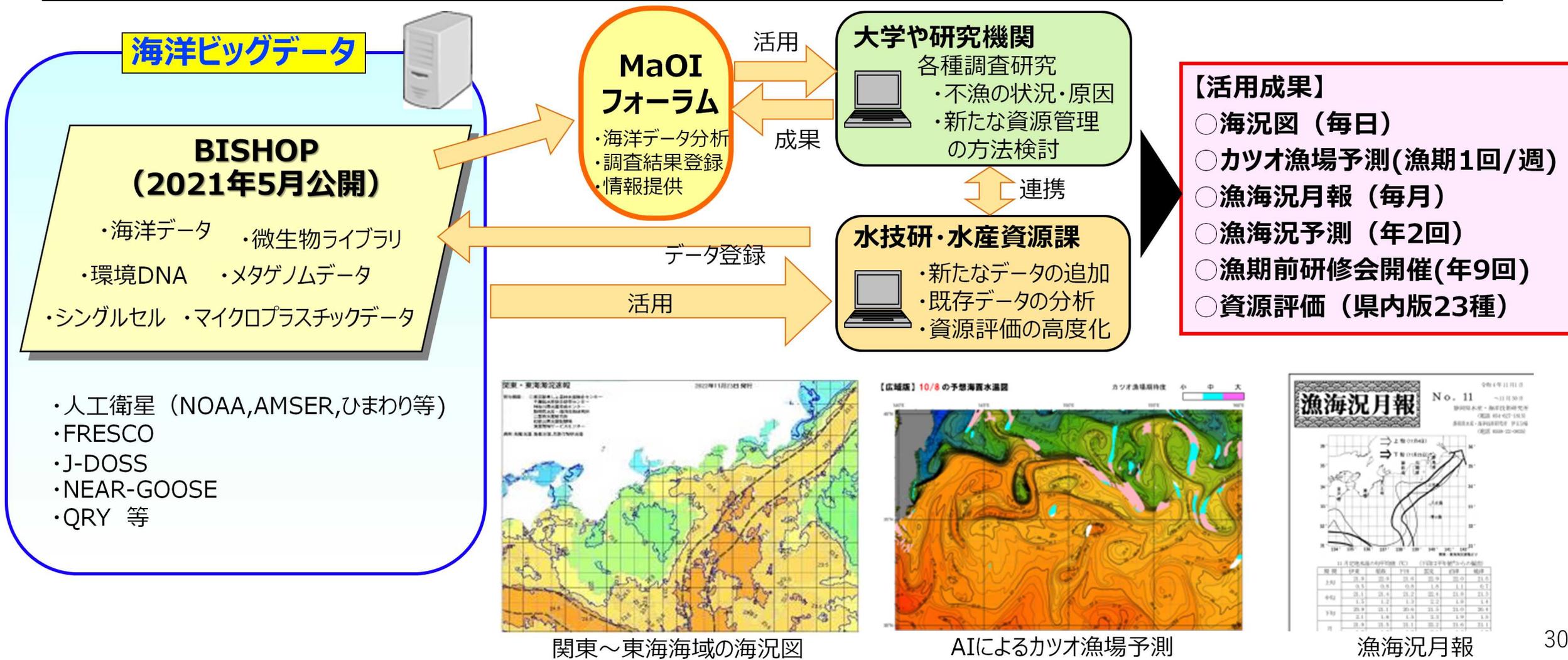


企業の「夢あじ」紹介HP

# (2) 海洋オープンデータプラットフォーム（BISHOP）等に蓄積されたビッグデータの活用による漁場、漁況等の予測や資源状況・動向

## 要点

- BISHOPに調査船や観測ブイ等による調査データを累計308万件登録（令和7年1～10月：53万件登録）
- ビッグデータを活用した海況図や漁況予測を漁業者等に提供



# (3) 未利用・低利用海洋資源の活用に資するマリンバイオテクノロジーの産業応用の促進 【マリンバイオ産業を振興するための海洋由来微生物を活用した新たな食品開発】

## 要点

- 静岡県の微生物叢のデータベース化とマリンバイオ産業の振興・創出
- **有用微生物**の探索・選抜海洋由来微生物を活用した**新たな食品開発**

県内各地から  
水産物・海水等  
148種類採取

有用微生物  
乳酸菌486株  
酵母13株



サクラエビ

シラス

ヒトエグサ

## 海洋由来微生物を使用した新製品開発（累計21商品）

### 高齢者マーケットに対応した 低塩発酵食品



パスタソース



唐揚げ用  
発酵調味料

### ハラル市場に適した 発酵魚介エキス



シラスラーメン



アジラーメン

### その他



大豆ヨーグルト



サワーエール

# 方向2- (1) 海・川の恵みの持続的な利用の確保

## < 現 状 >

- ・ サクラエビ、キンメダイ、アサリなど、本県の主要漁業の対象種において不漁が継続し、漁業生産量が減少
- ・ 漁場環境が急激に変化

## < 課 題 >

- ・ 不漁原因の究明や対策が必要
- ・ より効果的な資源管理・増殖対策 の推進が必要

対応方向

- ① 漁場環境調査の強化
- ② 資源管理制度の改善や新たな仕組みづくりの推進
- ③ 水産資源の増養殖の着実な推進
- ④ 生産力の確保・向上にむけた漁場環境の保全・改善



放流用のマダイ稚魚

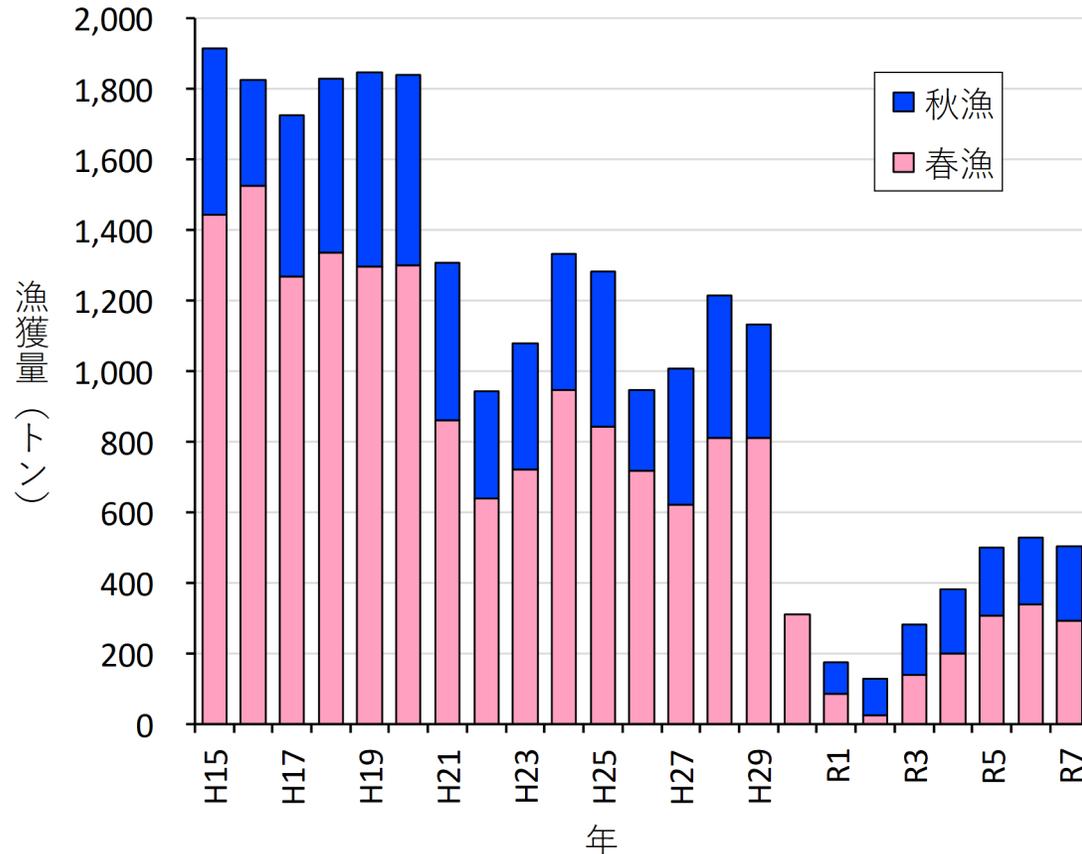
成果指標／活動指標	(基準値) 2020年度	(参考値) 2021年度	2022年度	2023年度	(現状値) 2024年度	2025年度	(目標値) 2025年度
資源管理に取り組む魚種数	累計14種	累計14種	累計14種	累計14種	累計15種	累計15種	累計16種
水産資源の維持・増大に向けた漁業者等の自主的取組件数	46件	46件	46件	48件	49件	48件	46件 (毎年度)
マダイ・ヒラメ放流尾数	マダイ128万尾 ヒラメ 41万尾	マダイ103万尾 ヒラメ 26万尾	マダイ 99万尾 ヒラメ 37万尾	マダイ 96万尾 ヒラメ 34万尾	マダイ 94万尾 ヒラメ 28万尾	マダイ 87万尾 ヒラメ 31万尾	マダイ105万尾 ヒラメ 32万尾

# (1) 水産資源の持続可能な管理の推進

## 【サクラエビの資源管理】

### 要点

- 資源状況が極めて厳しいことから、H30年は秋漁の商業操業を中止
- H31/R1春漁から、産卵場の禁漁等の漁業者の厳しい自主規制の下、商業操業を再開
- **R7秋漁においても、0歳エビを残すための厳しい自主規制の下、商業操業を実施**
- 重要なことは、「資源回復」と、漁業者・水産加工業者の「経営安定」 ➡関係者が一致団結して資源管理に取り組むことが重要



### ＜現在の対策と今後の方向＞

#### ○ 資源管理対策の推進

水技研と漁業者が連携した調査操業を継続的に実施し、漁業者自らによる資源回復の取組を支援。

R7春漁	R7秋漁
<ul style="list-style-type: none"> <li>主産卵場の保護</li> <li>成熟した個体の保護</li> <li>その他の自主的な制限</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>0歳エビの保護 湾奥ほど規制を厳しくし、湾奥の主産卵場に分布する0歳エビを優先保護</li> <li>その他の自主的な制限</li> </ul>

#### ○ 経営支援対策の推進

- ・漁業共済の推進に加え、制度資金の特例措置を実施。
- ・不漁対策の制度資金の継続。

# (1) 水産資源の持続可能な管理の推進

## 【キンメダイの資源管理】

### 要点

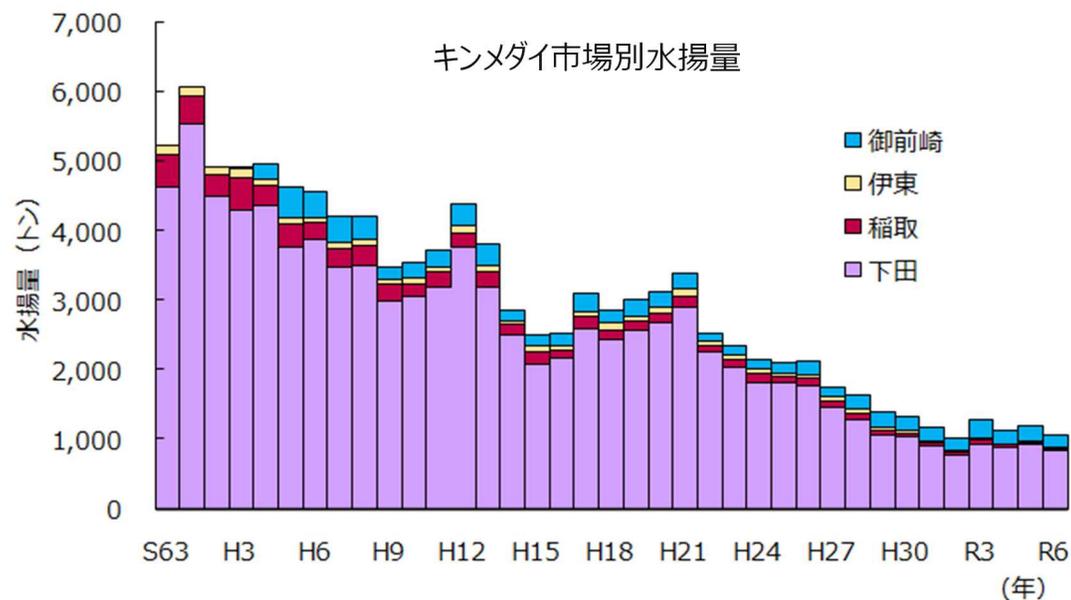
- 本県沿岸漁業の重要魚種だが、近年資源状況が悪化
- サメ類等による食害被害の実態把握とその対策の検討
- 広域的な操業ルール作りや種苗生産に向けた研究を実施
- 国のTAC制度導入の動きへの対応

## 1 資源状況

資源水準 ・平成27年以降、親魚量は増加傾向

資源量 ・令和6年：3.87万トン

出典：水産庁「令和7年度 魚種別系群別資源評価」



静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場調べ

## 2 資源管理

県内漁業者の自主規制  
[H7～]

- ・全長28cm以下は再放流
- ・夜間操業自粛
- ・水深200m以浅の操業自粛

1都3県の広域ルール作り  
[H26～協議]

- ・共通した禁漁期間や保護区域
- ・標識放流などの共同調査



## 3 TAC制度導入に向けたスケジュール

時期	項目	内容
R4/12/20	資源管理手法検討部会	参考人が意見表明、論点を整理
R5/8/31	資源評価結果公表	親魚量は平成27年以降増加傾向
R6以降	ステークホルダー会合	資源管理方針の検討
(未定)	資源管理基本方針の策定	

# (1) 水産資源の持続可能な管理の推進

## 【アサリの資源管理】

### 要点

- 浜名湖のアサリ漁獲量は、過去最低水準を継続
- アサリ資源減少要因は、餌不足による親貝の成熟状況の悪化、潮流の変化、クロダイによる食害など、複合的であることが判明
- 親貝の成熟・産卵の促進、幼生の稚貝着底促進、食害防除と稚貝育成、人工稚貝の活用など、**生活史に沿った総合的な対策を実施**

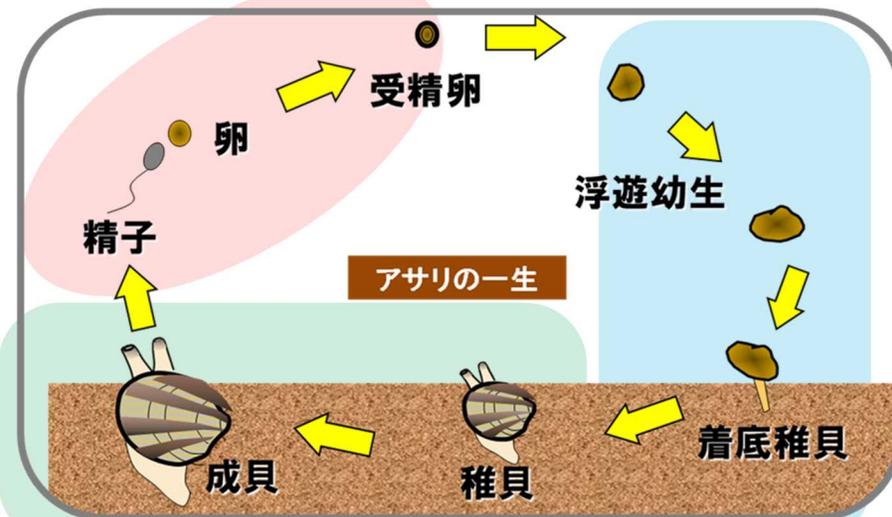
### 1. 垂下親貝の成熟・産卵の促進

- ・餌が豊富な湖北部で成熟・産卵
- ・人工稚貝も活用



### 3. 食害防除による生残率の向上

- ・値のつかないクロダイの買取りと食性調査
- ・囲い網、被覆網を用いた防除



### 2. 碎石敷設による着底率の向上

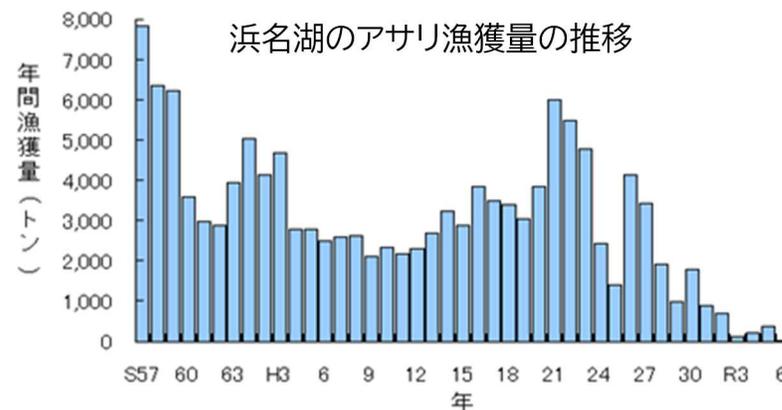
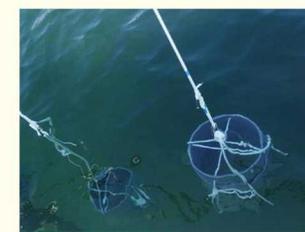
- ・深場に着底した稚貝の食害防除や移植手法などの検討
- ・碎石敷設の大規模事業化による増殖場の造成(R8~)

〈碎石敷設イメージ〉



### 4. 人工稚貝の活用

- ・民間企業の先端技術を活用
- ・人工稚貝を育成装置で飼育
- ・産卵親貝としての利用



# (1) 水産資源の持続可能な管理の推進

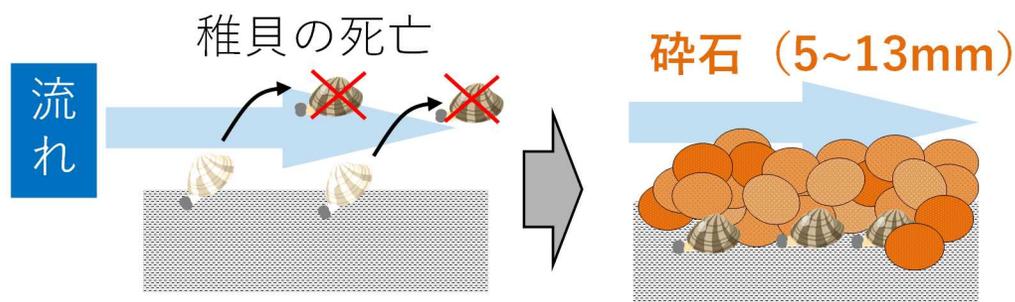
## 【沿岸漁場整備開発事業（浜名湖）】

### 要点

- 細かく砕いた砂利を敷き詰めて稚貝の生息場を確保する取組がアサリの生息密度（生残）を高めることが確認
- R 8 から、国の水産基盤整備事業を活用し、事業規模での漁場造成を実施（補助率 1 / 2）
- 主要産卵場である湖北部と浮遊幼生が着底して成育する湖南部に合計 3 か所（3 ha）を造成
- 併せて、被覆網による食害防止や人工稚貝の供給等のソフト施策を一体的に進める

### 1 事業内容

潮の流れからアサリ稚貝を守る砕石を設置する



### 2 事業計画

区分	内容
事業量	砕石敷設 1 ha × 3 か所
事業費	3 8 1 百万円
期間	R 8 ~ R 1 4 （7年間）
関係市	浜松市、湖西市

### 3 漁場造成の実施場所



湖北部

**主要産卵場近辺**に造成を行う

湖南部

**稚貝の成育場**に造成を行う

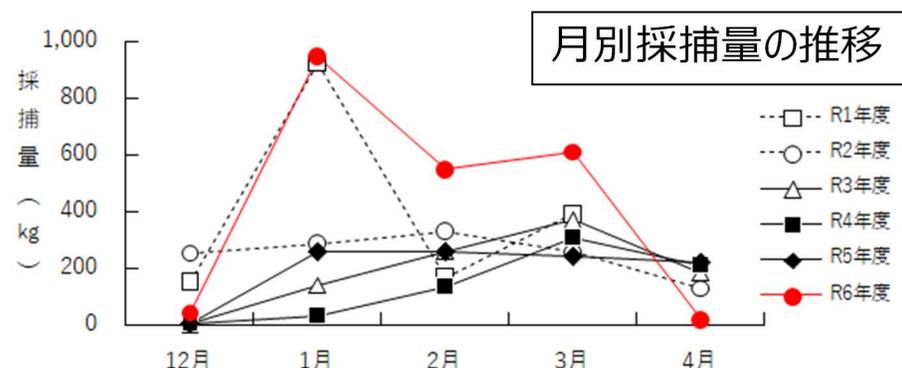
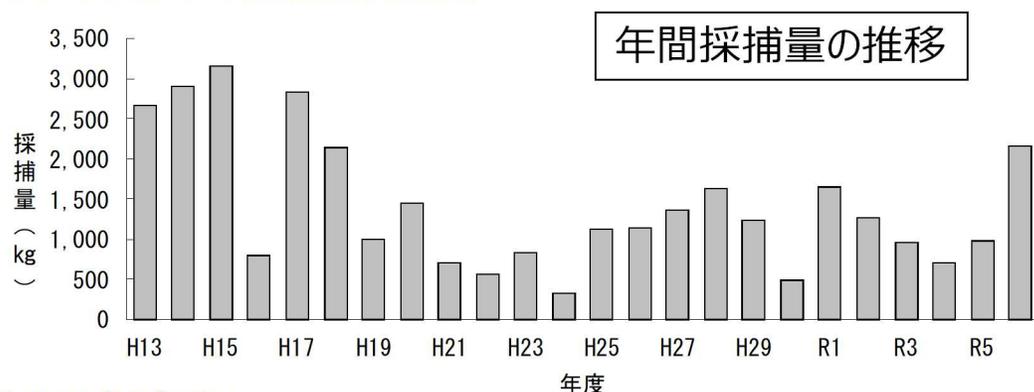
# (1) 水産資源の持続可能な管理の推進

## 【ウナギの資源管理】

### 要点

- H26、国際自然保護連合（IUCN）がニホンウナギを絶滅危惧種に指定
- また、ウナギ稚魚を漁業法の特定水産動植物に指定（R5.12～）、水産流通適正化法の対象魚種に指定（R7.12～）
- 国はウナギ養殖業を許可制に移行（H27.6）、**シラスウナギ採捕を知事許可漁業へ移行（R5.6～うなぎ稚魚漁業）**
- **R6の採捕量は2151.5kg**。過去5年間の平均（R1-R5）は1107kg

### 1 本県のシラスウナギ採捕量の推移



### 2 本県の取組方向

研究	<ul style="list-style-type: none"><li>・親魚候補である銀ウナギ（下りウナギ）の生物学的な特徴、及び親ウナギ放流に用いるウナギの効果的な養成方法について調査・研究</li><li>・国等と連携したシラスウナギの人工種苗生産技術の開発</li></ul>
採捕・流通	<ul style="list-style-type: none"><li>・知事許可漁業において新たな採捕規制を導入することにより、引き続き資源管理への取組を推進（R5.12～）</li><li>・不透明な流通の解消を図るため、県内に限定した流通の撤廃（R5.12～）</li><li>・静岡県内水面漁場管理委員会の指示による本県内水面全域における10月1日～2月末日のうなぎの採捕禁止（H29.10～）</li></ul>
親ウナギ買上放流	<ul style="list-style-type: none"><li>・県は、H29年度から、クラウドファンディングによるネットでの資金調達を支援。消費者参加型の事業を推進。（R7年度実績：支援者20名、支援金額500千円）</li></ul>



ふ化直後のウナギ仔魚  
[水技研浜名湖分場]

# (1) 水産資源の持続可能な管理の推進

## 【クロマグロの資源管理】

### 要点

- 資源状態の悪化により、中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）の管理措置により、H27から小型魚の漁獲量の半減等を実施  
令和6年の資源評価では、資源が順調な回復傾向を見せていることが示され、WCPFCの年次会合で漁獲の増枠が合意された
- 国は、H30からTAC制度※<sup>1</sup>により県・漁獲サイズ・漁業種類ごとに漁獲可能量を設定
- 県は、**漁獲可能量を漁業種類・期間ごとに配分**。県管理枠の有効利用のため**異なる漁業種類間で漁獲可能量を融通**
- 県は、漁獲量を迅速に把握、設定した漁獲可能量を超えずに、高い消化率で漁期を終了できるよう、**漁協・業界と連携した管理**を実施

### 1 漁獲サイズ及び漁業種類ごとの漁獲可能量（令和7管理年度※<sup>2</sup> R7.11.28時点）

漁獲サイズ及び漁業種類	大型魚（30kg以上）	小型魚（30kg未満）
国全体（国留保分を含む）	10,129.4トン	4,227.0トン
国管理	6,292.1トン	904.4トン
大中型まき網漁業	5,059.3トン	833.6トン
近海竿釣り漁業等	1,232.8トン	70.8トン
都道府県管理	3,625.5トン	3,271.7トン
静岡県	54.2トン（漁船33.9トン、定置10.7トン）	57.4トン（漁船36.8トン、定置12.2トン）

### 2 現状

H30.1	国管理漁業でくろまぐろTAC制度導入開始
H30.7	都道府県管理漁業でくろまぐろTAC制度導入開始
R3.3以降	県内の漁業種類間で漁獲枠の融通を実施。県管理枠を有効に活用
R4.10	漁船漁業等の大型魚の枠をはえ縄、ひき縄釣、その他に分離
R6.2	漁船漁業の小型魚、定置漁業の大型魚で12-3月配分量を超過したため、採捕停止命令を发出
R7.4	広域漁業調整委員会指示（沿岸くろまぐろ漁業）の新規承認が認められ、県内の承認隻数が増加（R5:938隻→R7:999隻）

※1 法令に基づく漁獲可能量管理制度。漁獲可能量を超えると、採捕停止命令を发出。罰則が適用される。

※2 国管理漁業ではR7.1～12、都道府県管理漁業ではR7.4～R7.3



上からキハダマグロ、クロマグロ、カツオ



定置網の操業風景

# (1) 水産資源の持続可能な管理の推進

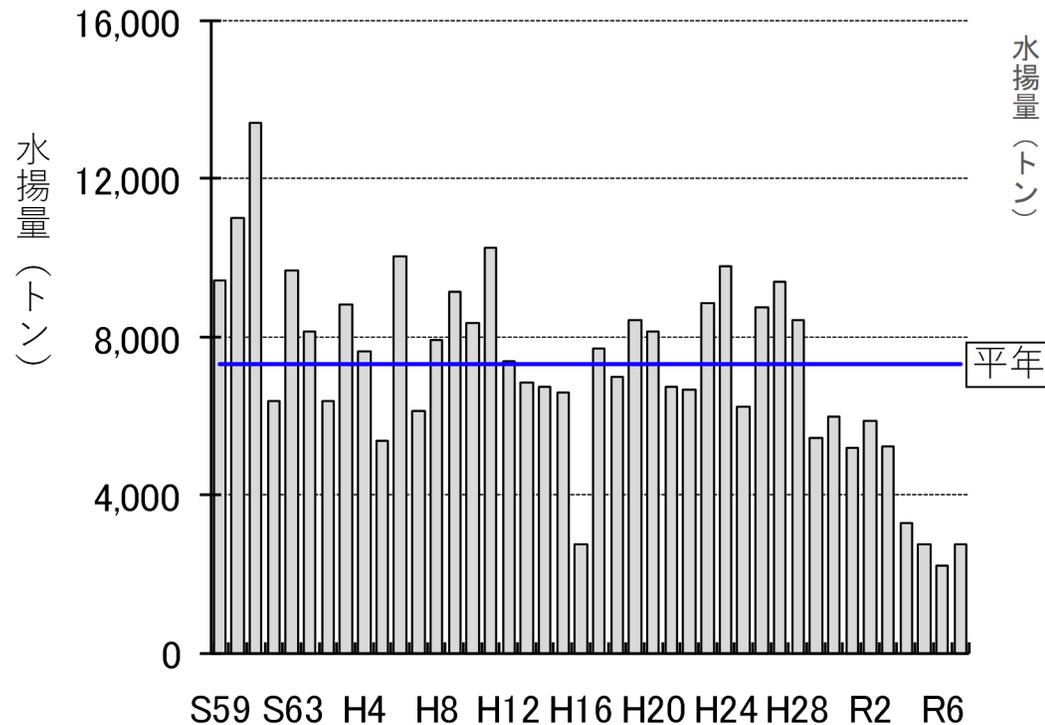
## 【シラスの資源管理】

### 要点

- 本県沿岸漁業の重要魚種。H29年以降平年を下回る水揚げが継続
- 近年、夏期以降のシラス水揚量が少ない傾向
- **資源管理に向けた自主的な取組**を行いながら操業を実施

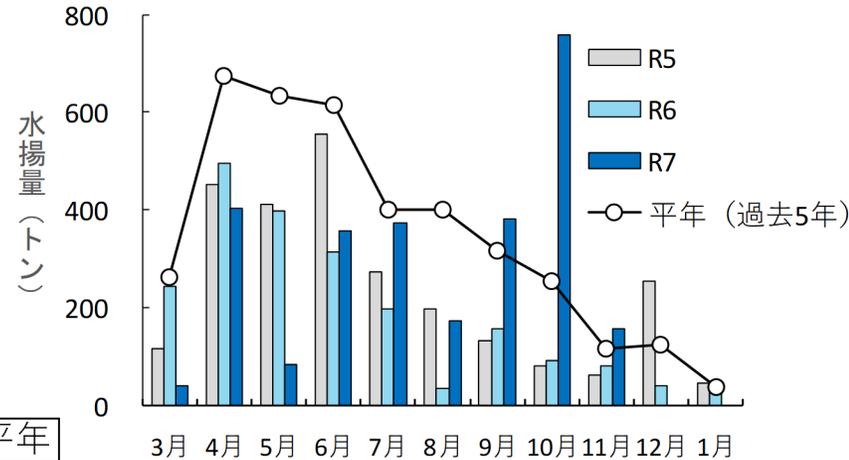
### 1 水揚量の動向

県内主要21港の暦年水揚状況  
(R7については、県内主要6港の11月末時点)



### 2 月別水揚状況

近年3年間の県内主要6港の月別水揚状況



水揚量	R7年10月を除き、低調な水揚げであった。
考えられる不漁の原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋のカタクチイワシの資源量の減少。</li> <li>・カタクチイワシ卵の量の減少。</li> </ul>

### 3 資源管理

- 水技研による資源動向の把握
- 自主的な取組
  - ・ **出漁日数の制限 (定期休漁日の設定等)**
  - ・ **操業時間の制限**
  - ・ **一部漁協によるプール制の導入**

## (2) 水産資源の増養殖の推進 【栽培漁業の推進】

### 要点

- 本県沿岸の水産資源の増大を図るため、**温水利用研究センター本所**（御前崎）と同センター**沼津分場（沼津）**において、種苗生産及びその技術開発を実施

### 1 運営費

運営委託	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放流用人工種苗の生産業務等の実施</li> </ul>
	R7計画 マダイ135万尾、ヒラメ50万尾、アワビ45万個 等
原発停止対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温水利用研究センターへ送水するための施設の維持、管理</li> <li>・ ボイラー使用による温水の確保</li> </ul>

### 2 マダイ及びヒラメの種苗生産実績

年度	生産目標	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
マダイ（千尾）	1,350	1,677	1,738	1,424	1,406	1,379
ヒラメ（千尾）	500	584	556	557	549	532

### 3 温水利用研究センター沼津分場再整備計画

令和7年度	管理作業棟、餌料培養棟、電気機械棟
令和8年度	貝類飼育棟
令和9年度	魚類飼育棟

R7.11月時点  
電気機械棟建設中



完成予想図

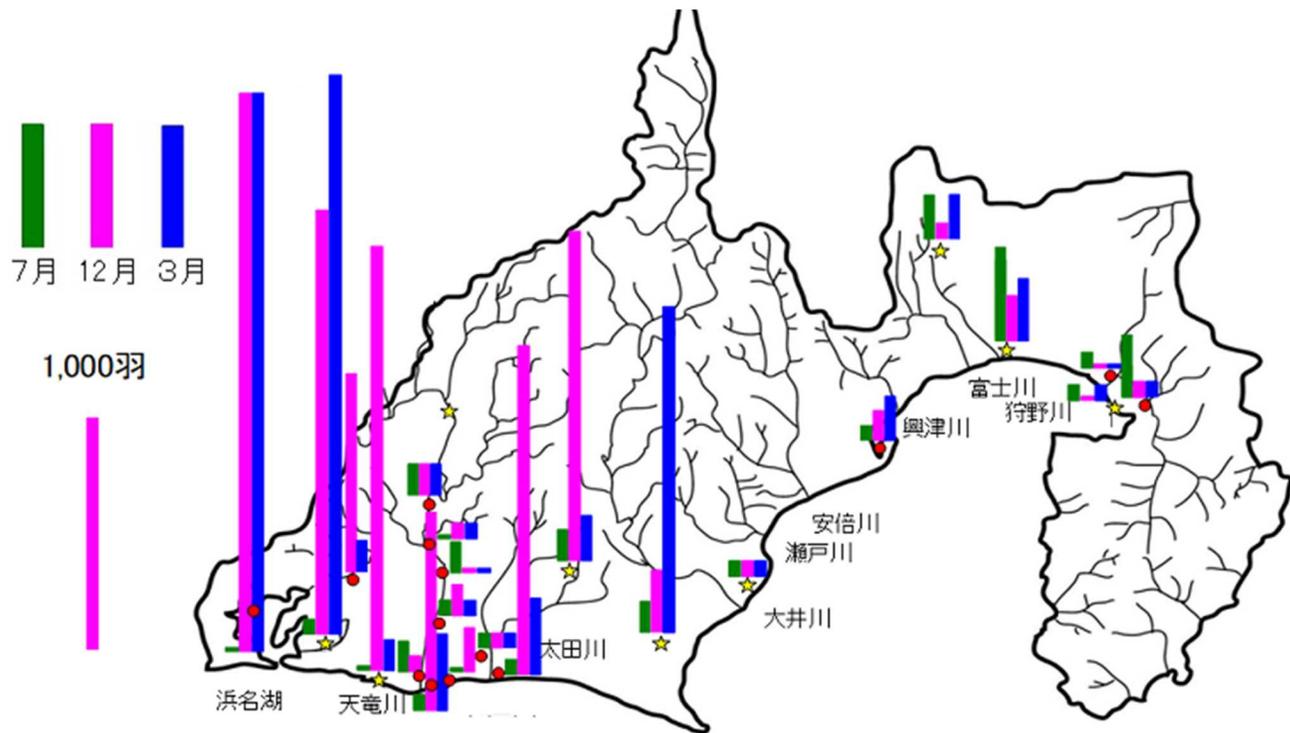


# (2) 水産資源の増養殖の推進 【カワウ食害防止対策事業】

## 要点

- 内水面漁業協同組合等が実施するカワウ銃器駆除費用を助成（補助率 1 / 3 以内）
- また、「静岡県カワウ食害防止対策検討会」を設置し、専門家を交えて、本県におけるより効果的・効率的なカワウ対策の検討を開始
- 県内では天竜川漁協、狩野川漁協が繁殖抑制や分布管理を実行しており、今後、他の漁協への展開を検討

## 1 本県におけるカワウの生息状況



参考：令和6年度静岡県カワウ生息実態調査（自然保護課）

## 2 銃器駆除と分布管理



銃器駆除

猟友会による銃器駆除



分布管理

ドローンでのひも張りによる追い払い

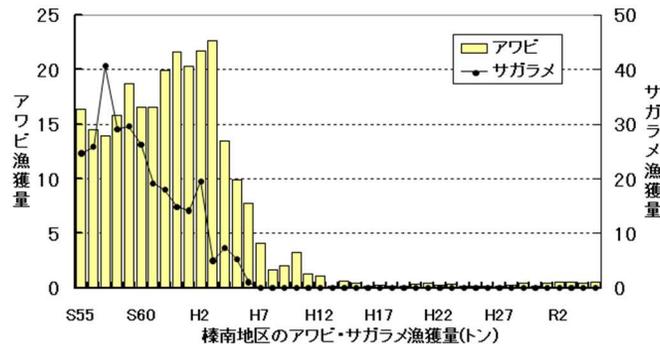
# (3) 沿岸生態系の維持・回復やカーボンニュートラル等の多面的機能の発揮に向けた海や川の環境保全 【藻場・ブルーカーボン・オフセット・クレジット制度関係】

## 要点

- 環境の変化等により各地で磯焼けが発生しており、藻場が有する多面的機能が低下
- 藻場の維持・回復に向け、海藻種苗移植事業や、漁業者活動の支援を実施
- カーボンニュートラルの推進に向けたオフセット・クレジット制度の取組を推進

## 1 藻場の状況

- ・ 榛南では磯焼けにより、アワビ、サガラメ漁獲量が減少
- ・ 伊豆半島でも大規模な磯焼けが発生



## 2 藻場回復に向けたサガラメ種苗移植・漁業者活動支援

- ・ 榛南地区でカジメ及びサガラメ種苗の移植 (R7 : 400基) と食害防止対策を実施予定
- ・ 榛南、伊豆地域で母藻投入や食害魚の駆除を行う漁業者活動を支援



## 3 伊豆半島沿岸海域でのアントクメ種苗移植

- ・ 西伊豆町仁科地先と下田市白浜地先でアントクメ種苗の移植を実施予定 (R7:200基)



### アントクメ

- ✓コンブ目の海藻
- ✓高水温でも枯れにくい
- ✓アワビ類の餌になる

## 4 ブルーカーボン・オフセット・クレジット制度の活用支援

- ・ 漁業者等による制度の活用を支援し、藻場保全活動を拡大するため、申請に必要な藻場現存量の簡易評価手法を開発
- ・ 開発した手法の運用に向けた普及を実施
- ・ 県内漁協による申請を支援  
(R4 認証件数 : 1 件、認証炭素固定量49.1t)  
(R5 認証件数 : 1 件、認証炭素固定量40.1t)



# 方向2- (2) 資源の維持・増大に向けた調査・研究の推進

## < 現状 >

- ・ サクラエビ等の水産資源の減少、藻場の衰退、加工原料不足
- ・ 地球温暖化の進行、漁場環境の急激な変化
- ・ 資源管理制度の適正な運用や自主的管理の進展
- ・ 駿河湾などの特徴ある海洋環境と多様な海洋資源の存在

## < 課題 >

- ・ 革新的な増養殖技術や加工技術の開発が必要
- ・ 水産資源の管理研究やビッグデータの利活用が必要
- ・ 微生物などの資源探索や機能性評価等に関する研究が必要

対応方向



- ① 大学等との連携によるキンメダイ、アサリ等の効率的な種苗生産技術開発
- ② ウナギの資源管理やサガラメ等の藻類の増養殖技術研究
- ③ 飼料原料や加工原料の再考や養殖業の生産性向上に関する研究
- ④ ビッグデータの解析などによる資源量評価や漁場予測技術の高精度化
- ⑤ 研究の社会実装（企業の商品づくりや漁業者活動の支援）



日齢33日のキンメダイ

活動指標	(基準値) 2020年度	(参考値) 2021年度	2022年度	2023年度	(現状値) 2024年度	2025年度	(目標値) 2025年度
水技研における外部資金獲得件数 (継続含む)	9件	8件	8件	11件	9件	12件	10件/年
水技研における広報・広聴実施件数	55件	56件	58件	102件	97件	78件見込	60件/年

# (1) 水産業のイノベーションを促進する研究開発

## 【重要魚種の種苗生産と養殖研究】

### 要点

- 県漁業の重要魚種である**キンメダイ**の種苗生産技術及び**ノギリガザミ**の種苗生産・養殖技術の開発を実施

### キンメダイ 【目的】 栽培漁業に向けた種苗生産の実現

#### 親魚養成



催熟技術の開発

ホルモン投与

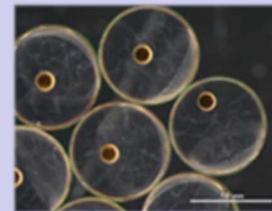


人工採卵・授精

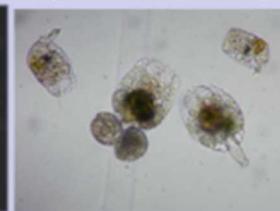


#### 種苗生産技術の開発

受精卵



初期餌料  
(シオミズツボウムシ)



仔魚 (6日齢)



種苗放流  
資源回復へ

餌料・飼育設備の検討

### ノギリガザミ 【目的】 浜名湖の漁業再建への貢献と新たな輸出産業の創出

#### 種苗の量産技術の開発

種苗生産

卵



ゾエア幼生



メガロパ幼生



稚ガニ



壊死症予防 + 過剰発育予防

#### 収益性のある養殖技術の開発

養殖

出荷サイズ



餌の最適化

養殖設備の開発

# (1) 水産業のイノベーションを促進する研究開発 【ウナギ及びニジマスにおける育種研究】

ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業（国庫事業）  
養殖業成長産業化技術開発事業（国庫事業）

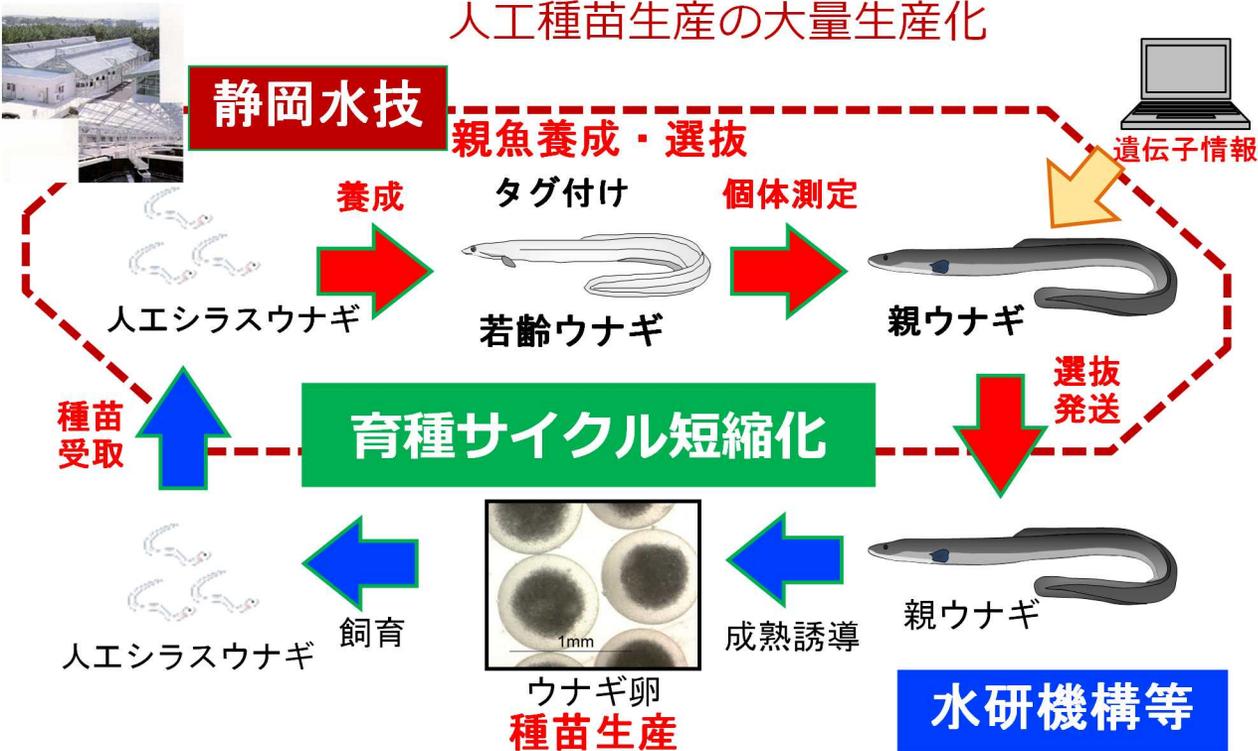
## 要点

- ウナギとニジマスにおいて、(国研)水産技術研究所等と連携し、**育種技術の開発**や**優良系統の作出**を行う

## ウナギ

### 【目標】

育種サイクル短縮化、優良系統選抜  
人工種苗生産の大量生産化

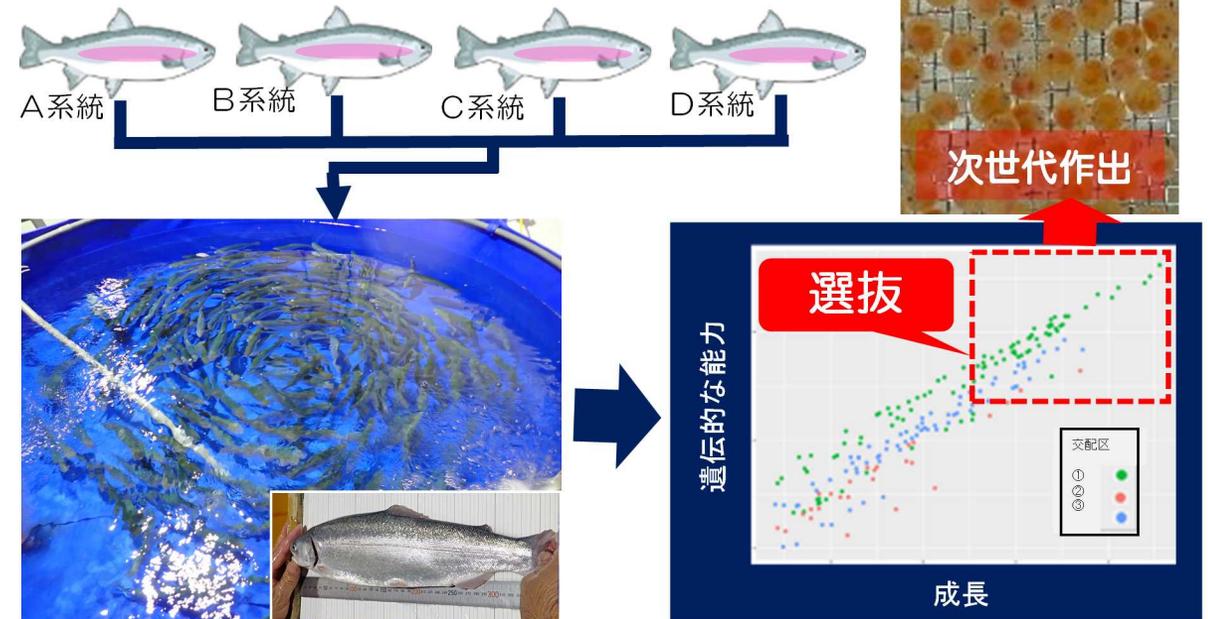


### 【成果】

遺伝的選抜等による人工種苗の飼育期間短縮・生産コスト削減に向けて、親魚養成・選抜中

## ニジマス

### 【目標】 海面養殖に適した系統の作出



全国の多様な系統を  
交配させた集団を作出

海水での成長が良く  
遺伝的な能力が高い個体を選抜

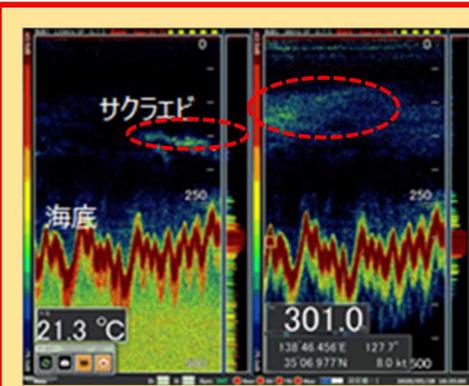
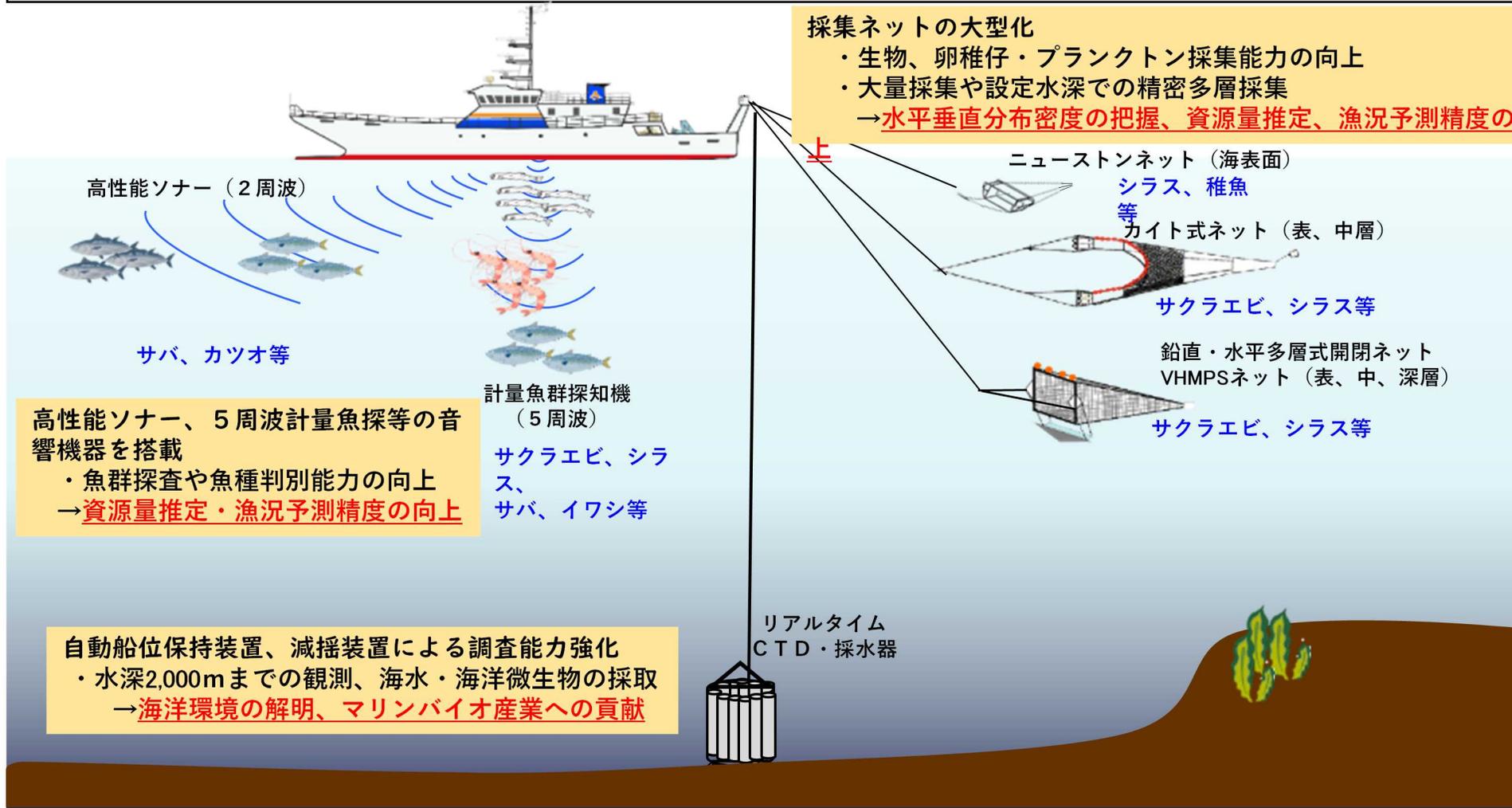
短い適水温期でも高成長を示す系統を作出

【成果】 成長が良い個体を交配し、選抜集団を作出  
選抜第2世代まで作出し、育種は順調に推進中

## (2) 駿河丸などの最新設備を活用した海洋環境、水産資源等の調査研究

### 要点

- イワシの卵や稚魚の大量・定量採集により来遊量を把握するとともに、海洋環境（水温、流れ等）から1か月先の漁獲量を予測
- サクラエビ卵・幼生を水深ごとに採集し、それらの分布と海洋環境との関係を明らかにする
- 資源管理の高度化やマリンバイオ産業創出に寄与する深海採水調査を実施



計量魚探による  
サクラエビ資源調査



水深200mより  
ネット採集したサクラエビ

### (3) 水産業の持続的発展を支える技術支援

#### 要点

- 漁業経営安定化のため、**研究を通じて蓄積した知見を活用**して漁業者等の取組を支援
- 関係機関との**連絡調整**や**各種制度の周知**等を通じた水産現場の**包括的な支援**

#### ○海業取組への支援 (本所)

海業に関する情報の収集と発信のほか、漁協等による海業の取組を支援



イベントで賑わう漁港

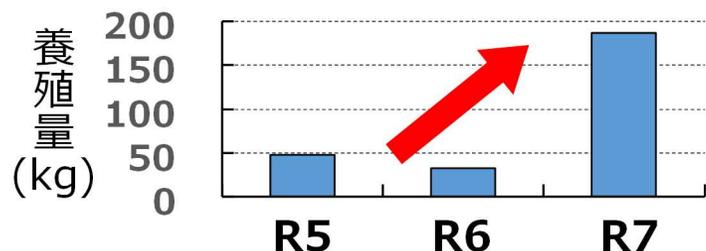


海業作戦会議

#### ○アサリ垂下養殖支援 (浜名湖分場)



浜名湖のアサリ漁業の継続が困難な状況になりつつある中、漁業者が取り組んでいる「垂下養殖」の技術向上・規模拡大を支援



#### ○魚病講習会 (浜名湖分場・富士養鱒場)

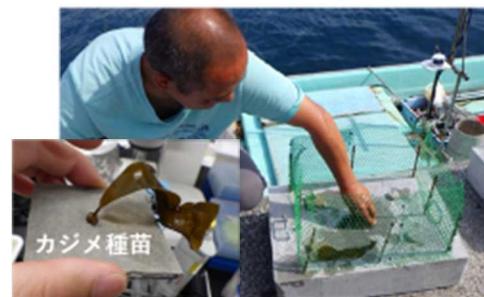
主に養殖業者を対象に、魚病情報や水産用医薬品の適正使用について周知



魚病講習会

#### ○伊豆半島における磯焼け対策活動支援 (伊豆分場)

磯焼けからの回復に向けた、漁業者等による海藻種苗移殖や食害生物の採捕・流通の取組を支援



カジメ種苗移殖指導



食害生物(ブダイ)採捕支援

# (4) 海の温暖化に伴う出現魚種の変化とその活用に関する研究 (R7～新規取組)

## 要点

- 地球温暖化などの影響で海水温が上昇し、沿岸・沖合の主要魚種の漁獲量が減少し、加工原料が不足
- 近年、漁獲されるようになった南方系魚種の漁業、水産加工業への利活用を推進

### ①市場価値が低い南方系漁獲物の探索

- ・市場伝票漁獲統計の整理
- ・市場調査による雑魚の調査



市場での魚種選別



雑魚 (低利用魚)



- ・漁獲統計…シロアマダイ、ニベ、ハタ類などが増加
- ・市場調査…フエダイ、台湾カマスなどが増加



シロアマダイ



オオニベ

### ②漁獲が確認されている南方系漁獲物の利用方法の開発 (3種)

#### 【カタボシイワシ】



- ・定置網で漁獲
- ・3～5月に漁獲多い
- ・小骨、鱗がきつい

#### 【台湾アイノコイワシ】



- ・シラスに混獲
- ・3月、9～11月に漁獲

#### 【テンジクタチ】



- ・タチウオに混獲
- ・6～11月に漁獲

# 参考データ

○主要指標 ※ 生産額は、海面漁業と海面養殖業の合計

項目	静岡	全国	シェア	
経営体数 (R5)	全体	1,714	65,662	2.6%
	専業	707	33,921	2.1%
	兼業	920	27,467	3.3%
	その他	87	4,274	2.0%
漁業就業者 (人) (R5)	全体	3,753	121,389	3.1%
	自営漁業	1,584	68,460	2.3%
	雇われ漁業	2,035	44,873	4.5%
	漁業従事役員	134	8,056	1.7%
生産量 (トン) (R6速報値)	海面漁業・養殖業	164,600	3,588,300	4.6%
	内水面漁業・養殖業	3,165	46,501	6.8%
生産額 (百万円) (R5※)	54,018	1,524,014	3.54%	
水産加工品生産量 (トン) (R5)	119,473	1,240,678	9.6%	

○主要魚種生産量 (R6,速報値)

	静岡 (トン)	全国 (トン)	順位	シェア
海面漁業全体	167,765	3,634,801	5	4.6%
カツオ	81,900	258,000	1	27.5%
マイワシ	43,800	666,700	4	6.5%
サバ類	8,600	256,000	9	4.3%
キハダ	10,100	46,700	1	21.6%
ビンナガ	1,700	26,600	5	6.3%
シラス	2,300	36,900	5	6.2%
メバチ	3,300	29,000	3	11.3%
ミナミマグロ	1,300	6,500	2	20.0%
サクラエビ	529	-	1	100%

○漁業生産量

	R2	R3	R4	R5	R6
総生産量	188,999	254,246	153,038	133,015	167,765
海面漁業	184,055	249,515	147,231	126,900	162,000
海面養殖業	2,445	2,256	2,386	2,600	2,400
内水面漁業	非公表	非公表	1	1	0
内水面養殖業	2,499	2,575	3,420	3,514	3,165

○漁業生産額

	R元	R2	R3	R4	R5
総生産額	49,113	45,860	50,723	43,896	54,018
海面漁業	46,431	41,183	48,463	41,243	51,064
海面養殖業	2,682	4,677	2,261	2,653	2,954

○主要魚種生産額 (R5確報)

	静岡 (百万円)	全国 (百万円)	順位	シェア
海面漁業全体	51,064	951,040	4	5.4%
カツオ	17,202	66,142	1	26.0%
キハダ	6,700	39,031	1	17.2%
シラス	4,603	42,023	3	11.0%
サバ類	1,992	36,063	6	5.5%
メバチ	3,242	32,678	4	9.9%
ミナミマグロ	2,665	13,637	3	19.5%
クロマグロ	2,010	39,614	6	5.1%
マイワシ	2,035	49,394	9	4.1%
サクラエビ	2,105	-	-	100%

○主要養殖魚種生産量 (R6,速報値)

	静岡(トン)	全国(トン)	順位	シェア
ウナギ	1,791	16,159	4	11.1%
マダイ	1,200	68,400	7	1.8%
ニジマス	1,253	5,180	1	24.2%
マアジ	200	500	1	40.0%
カキ類(殻付き)	200	149,100	14	0.0%

○主要養殖魚種生産額 (R5,確報値)

	静岡(百万円)	全国(百万円)	順位	シェア
マダイ	1,214	72,410	9	0.0%
マアジ	474	731	1	64.8%
カキ類	788	40,893	9	1.9%
ブリ類	171	139,849	12	0.3%

○地域別・年齢別新規就業者数 (R5)

	(人)					
	伊豆	東部	中部	西部	不明	計
19以下	1	0	10	0	0	11
29以下	2	2	21	2	0	27
39以下	0	0	10	2	0	12
49以下	0	0	4	2	0	6
59以下	0	0	3	0	0	3
60以上	0	0	4	2	0	6
不明	0	0	0	0	0	0
計	3	2	52	8	0	65

○主要漁港水揚げ (R6)

	水揚量(トン)	水揚額(百万円)	主な魚種
漁港全体	133,757	48,467	
焼津漁港	124,507	41,935	カツオ、その他マグロ類
宇佐美漁港	2,202	191	イワシ類、ウルメイワシ
網代漁港	1,432	208	イワシ類、カマス
舞阪漁港	1,308	1,505	シラス、ブリ類
北川漁港	943	149	サバ類、マイワシ
由比漁港	800	1,712	エビ類、マアジ
吉田漁港	480	616	シラス
用宗漁港	355	443	シラス
福田漁港	355	395	シラス

○水産加工品生産量 (R6)

	静岡(トン)	全国(トン)	順位	シェア
加工品生産全体	97,759	963,046	3	10.2%
ねり製品	10,394	408,262	12	2.6%
冷凍食品	24,055	251,715	2	9.6%
乾製品	6,621	99,777	8	6.6%
くん製品	0	3,515	-	0.0%
塩蔵品	0	130,574	-	0.0%
節製品	11,967	68,638	2	17.5%
水産缶詰	29,183	66,562	1	43.8%
その他	8,918	284,281	7	3.6%

## 参考データ出典一覧

### ○主要指標

経営体数、漁業就業者：「漁業センサス2023」農林水産省

生産量（R6,速報値）：「漁業・養殖業生産統計」農林水産省

生産額（R5,確報値）：「漁業・養殖業生産統計」農林水産省

水産加工品生産量：「漁業センサス2023」農林水産省

「缶詰時報」（公社）日本缶詰びん詰レトルト食品協会

○主要魚種生産量（R6,速報値）：「漁業・養殖業生産統計」農林水産省

○漁業生産量：「漁業・養殖業生産統計」農林水産省

○漁業生産額：「漁業・養殖業生産統計」農林水産省

○主要魚種生産額（R5,確報値）：「漁業・養殖業生産統計」農林水産省

○主要養殖魚種生産量（R6,速報値）：「漁業・養殖業生産統計」農林水産省

○主要養殖魚種生産額（R6,確報値）：「漁業・養殖業生産統計」農林水産省

○地域別・年齢別新規就業者数（R6）：県水産振興課調べ

○主要漁港水揚げ（R6速報値）：県港湾企画課調べ（「漁港の港勢調査」水産庁）

○水産加工品生産量：「水産加工品統計」農林水産省